

平成18年度（2006年度）
事業報告書

財団法人 日本テニス協会

[目次]

平成18年度主要会議報告	3
平成18年度表彰伝達式受賞者一覧	4
平成18年度事業報告書(寄付行為事業別)	5
平成18年度事業報告書(本部・専門委員会別)	9
総務本部	9
トーナメント本部	17
ベテラン本部	29
マーケティング本部	33
ジャパンオープン本部	35
ナショナルチーム	37
強化企画本部	46
普及指導本部	49
専務理事直轄	58

平成18年度主要会議報告

平成18年

4月11日(火)	第1回常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
5月19日(金)	第2回常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
5月30日(火)	第1回理事会	岸記念体育会館4階会議室
5月30日(火)	第1回評議員会	岸記念体育会館5階会議室
6月20日(火)	第3回常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
7月25日(火)	第4回常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
8月29日(火)	第5回常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
9月14日(木)	第6回常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
10月 4日(水)	臨時理事会	有明テニスの森公園内 JTA マーキー
10月24日(火)	第7回常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
11月21日(火)	第8回常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
12月 5日(火)	第9回常務理事・本部長会議	岸記念体育会館1階会議室

平成19年

1月16日(火)	第10回常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
2月22日(木)	第11回常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
3月16日(金)	第12回常務理事・本部長会議	代々木第二体育館内会議室
3月30日(金)	第2回理事会	岸記念体育会館4階会議室
3月30日(金)	第2回評議員会	岸記念体育会館5階会議室

以上

平成18年度表彰伝達式受賞者一覧

功労賞

日本テニス協会：鈴木幸一
北海道テニス協会：本田彰
東北テニス協会：玉澤徳一郎・佐藤勇
関東テニス協会：鈴木兵部・山本賢一・大石輝彰・上羅廣・小倉久幸・掛札岩男
東海テニス協会：服部正美
関西テニス協会：松堂力・伴野忠生
中国テニス協会：船津正雄・福井雄治
九州テニス協会：中山二郎

企業賞

日本テニス協会：株式会社ゴールドウィン

優秀団体賞

日本テニス協会：園田学園中学校

優秀選手賞

ナショナルチーム：アジア大会男子チーム（岩淵聡・鈴木貴男・添田豪・松井俊英）
ナショナルチーム：杉山愛

ジュニア大賞

ナショナルチーム：杉田祐一・錦織圭

優秀指導者賞

ナショナルチーム：植田実

優秀審判賞

審判委員会：小林あおい・辻村美和

メディア賞

広報委員会：北海道新聞社および道新スポーツ社

クラブ賞

関西テニス協会：中モズローンテニスクラブ・大阪女学院しののめテニスクラブ

以上

財団法人 日本テニス協会 平成18年度事業報告書

自平成18年4月1日至平成19年3月31日

1. テニスの普及及び指導

- (1) 全日本テニス選手権大会時のキッズ・ジュニアクリニックの開催（選手委員会）
- (2) 選手登録者数の増加（国内大会委員会）
- (3) テニスをする場と機会の確保（企画委員会）
- (4) テニスファン、テニス選手、マスコミ・メディア、スポンサーの為のサービス活動、及び、「観るテニス」の普及支援活動（プロモーション委員会）
- (5) 47都道府県協会とテニスの日推進協議会との連携によりテニスの日の実施をメインとして活動した。また ITN の査定デモンストレーションは関連委員会の協力を得て実施した（普及委員会）
- (6) 19年度より導入される ITN システムの普及に協力し、そのための環境整備作りを心がける。ITN 査定ガイド(冊子)をより充実し査定人編、プレーヤー編を作成し導入を判りやすくする（指導者育成委員会 ITN システム部会）
- (7) キッズテニスの普及及び指導（普及委員会 キッズテニス部会）
- (8) JOC のスポーツ環境委員会及び他の競技団体と連携し、テニス界を中心とした自然環境保全と整備を目的とした活動（環境委員会）
- (9) 幼稚園・小学校マナーキッズテニスプロジェクトの実施（幼稚園・小学校マナーキッズテニスプロジェクト）

2. 全日本テニス選手権大会及びその他のテニス競技会の開催並びに国内で開催されるテニス競技会の後援、公認

- (1) 国内トーナメント（一般大会）の円滑な運営と管理（国内大会委員会）
- (2) 各種大会へレフェリー、審判員の派遣（審判委員会）
- (3) 国民体育大会テニス競技の運営（国体委員会）
- (4) 全日本都市対抗テニス大会の実施（国体委員会）
- (5) 第30回全日本都市対抗テニス大会の準備等（国体委員会）
- (6) 第67回国民体育大会（岐阜県）第一回中央競技団体正規視察（国体委員会）
- (7) 第21回テニス日本リーグの開催（実業団委員会）
- (8) 第20回全国実業団対抗テニストーナメント〔A大会〕の開催（実業団委員会）
- (9) 第45回全国実業団対抗テニス大会〔ビジネスパル・テニス〕の開催（実業団委員会）
- (10) 第68回全日本ベテランテニス選手権大会〔ベテラン JOP グレードA〕の開催（ベテラン委員会）
- (11) 第30回全日本ローンコートベテラン選手権大会〔ベテラン JOP グレードB₁〕の運営協力（ベテラン委員会）
- (12) 47都道府県協会主催のベテラン JOP グレードE大会 FGH大会の推進と運営協力（ベテラン委員会）
- (13) 日本スポーツマスターズ・テニス競技の運営と協力（ベテラン委員会）

3. テニスに関する国際競技会を開催し、又は国際競技会への代表者の選考及び派遣並びに外国からの選手等の招聘

- (1) 各種国際大会の主催ならびに後援・公認（国際大会委員会）
- (2) 各種国際大会の開催ならびに外国からの選手招聘（国際大会委員会）
- (3) 各種大会へレフェリー、審判員の派遣（審判委員会）
- (4) 国際ベテラン大会への選手派遣（ベテラン委員会）

(5)AIG JAPAN OPEN 2006 の開催 (ジャパンオープン委員会)

4. テニスに関する公認指導員及び審判員の養成並びに資格認定

- (1)国際審判員・レフェリー養成事業の実施 (審判委員会)
- (2)審判員・レフェリー養成事業ならびに審判講習会の実施 (審判委員会)
- (3)審判の実態把握ならびに審判員の待遇改善 (審判委員会)
- (4)公認審判員・公認レフェリーの平成 17 年度更新登録者管理 (審判委員会)
- (5) オリンピックへ向けて「発掘・育成・強化」コーチ養成及びテニス普及を担う指導者の資質の向上を目的とした事業を推進する (指導者育成委員会)

5. テニスの競技力向上

- (1)ナショナル代表チームの遠征 (ナショナルチーム)
- (2)フェドカップへの参加 (ナショナルチーム)
- (3)第 15 回アジア大会 (2006/ドーハ) への参加 (ナショナルチーム)
- (4)ナショナルジュニア海外遠征 (ナショナルチーム)
- (5)ナショナルチーム強化合宿・キャンプ及び選考会 (ナショナルチーム)
- (6)競技力向上を目的としたコーチ及びトレーナーの育成 (ナショナルチーム)
- (7)オーストラリアオープン ボールキッズトライアルの実施 (強化システム委員会)
- (8)ATF U-14 の日本での大会の開催とその大会期間中の U-14 トレーニングキャンプの実施 (強化システム委員会)
- (9)ナショナル強化指定選手に対してのスポーツ科学的サポート (スポーツ科学委員会)
- (10)地域ジュニア選手に対してのトレーニング・測定合宿の開催 (スポーツ科学委員会)
- (11)デ杯、フェド杯の戦術・ゲーム分析 (スポーツ科学委員会)
- (12)2007JTA ナショナルコーチング・ワークショップの開催 (スポーツ科学委員会)
- (13)JISS 委託研究事業 (スポーツ科学委員会)
- (14)トレーニングセンターシステムにおける地域スポーツ科学サポート体制の整備・確立 (スポーツ科学委員会)
- (15)「ジュニア選手の体力、コンディショニング、傷害に関する講習および調査研究」(ヨネックススポーツ財団 青少年スポーツ振興に関する助成金事業)〔特別企画〕(スポーツ科学委員会)
- (16)「ジュニアテニス選手のタレント発掘に関する研究ー基礎体力とフィールドテストとの関係についてー」(JISS 委託研究事業)〔特別企画〕(スポーツ科学委員会)
- (17)ブロック及びエリアトレーニングセンター設置を目的とし、指導者養成とジュニア発掘、育成システムの推進する「ジュニア及び指導者強化合宿」の開催(一貫指導体制推進委員会)
- (18)強化指導指針に基づく一環指導理念を具体化し、ジュニア及び指導者、あるいは保護者に伝達する「情報のソフト化事業」の実施(一貫指導体制推進委員会)
- (19)指導者会議等の開催(一貫指導体制推進委員会)

6. テニスに関する競技規則及びアマチュア規定の制定並びにテニスランキングの作成

- (1)国民体育大会・全日本都市対抗テニスサスペンションポイントの制定 (国体委員会)
- (2)JTA ランキングシステムの徹底並びに年間テニス順位作成 (国内大会委員会)
- (3)ジュニア選手に関わる各種規程の改善と設定 (強化システム委員会)

7. 日本テニス界を代表して、財団法人日本体育協会、財団法人日本オリンピック委員会、国際テニス連盟 (略称 I. T. F.) 及びアジアテニス連盟 (略称 A. T. F.) に加盟すること

- (1)国際会議への出席等、国際事業の実行とサポート (国際委員会)

(2)財団法人日本体育協会国体委員会への出席（国体委員会）

8. 年鑑その他の刊行物の発行

- (1)JTA NEWS の発行（広報委員会）
- (2)テニスプレーヤーズガイドの発行（広報委員会）
- (3)プログラム、ポスター、チラシ等の企画、発行（広報委員会）
- (4)新ルールブックの発刊・販売ならびにルールの周知徹底（国内大会委員会）
- (5)ルールブック 2007 の発刊・販売ならびにルールの周知徹底（審判委員会）
- (6)ルールブック 2007 の発行（審判委員会）
- (7)プレーヤーズノートの改訂および新規作業（スポーツ科学委員会）

9. テニスに関する用具及び施設の検定並びに公認

- (1)テニスに関わる用具の認定、公認または推薦（総務委員会）

10. テニス施設の管理運営

- (1) ナショナルトレーニングセンター設立に向けての準備体制の確立（強化システム委員会）

11. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

- (1)テニスに関する用具の認定、公認（総務委員会）
- (2)平成 18 年度 JTA 表彰の実施（総務委員会）
- (3)平成 18 年度オリジナルコーチ奨励金授与（総務委員会）
- (4)特別表彰の実施（総務委員会）
- (5)平成 18 年度選手報奨金授与の表彰実施（総務委員会）
- (6)諸規程の改定・新規作成（総務委員会）
- (7)各種イベント後援申請等の審査（総務委員会）
- (8)ホームページによる JTA 情報発信（広報委員会）
- (9)動画配信サイト「TENNIS ONLINE」の運用（広報委員会）
- (10)メールマガジンの発信（広報委員会）
- (11)メディアメールの発信（広報委員会）
- (12)プレスルームの運営（広報委員会）
- (13)プロフェッショナル選手の登録管理（選手委員会）
- (14)新規プロフェッショナル対象研修会の開催（選手委員会）
- (15)全日本テニス選手権大会選手ミーティングの開催（選手委員会）
- (16)全日本テニス選手権大会チャリティーオークションの開催（選手委員会）
- (17)ナショナルチームに対するメディカルサポートの充実（医事委員会）
- (18)ドクター・トレーナーの派遣（医事委員会）
- (19)テニス障害の対策（医事委員会）
- (20)選手の痙攣防止対策の立案・提言（医事委員会）
- (21)スポーツビジョン(スポーツに必要な視覚能力)の啓蒙と普及（医事委員会）
- (22)トレーナー業務の整備・充実（医事委員会）
- (23)地域メディカルサポート体制の確立（医事委員会）
- (24)テニス医学情報の収集（医事委員会）
- (25)テニス障害の情報発信（医事委員会）
- (26)テニス医学に関する洋書の翻訳出版（医事委員会）
- (27)歴史的テニス資料の収集・管理と再活用（テニス資料館準備委員会）
- (28) テニス資料館（ミュージアム）設置に向けた広報活動ならびに史資料の収集・整理・活用

(テニス資料館準備委員会)

- (29) AIG ジャパンオープン開催時などにテニスの歴史展開催
- (30) Web サーバーのレンタル< www.jta-tennis.or.jp > (IT 企画委員会)
- (31) Windows サーバーのレンタル< www.tennis.or.jp > (IT 企画委員会)
- (32) JTA ランキングの更新 (IT 企画委員会)
- (33) サーバーサポート及び保守 (IT 企画委員会)
- (34) ファイル共有サーバーの新設 (IT 企画委員会)
- (35) ファイル共有サーバーのレンタル (IT 企画委員会)
- (36) JTA 公式ライブスコアの運用 (IT 企画委員会)
- (37) [JTA テニス! オンライン]のインテル社との共同マーケティング (IT 企画委員会)
- (38) スマートデジタルライフ推進プロジェクトへの参画 (IT 企画委員会)
- (39) トーナメント改革の実施 (国際大会委員会)
- (40) 国際大会視察の実施 (国際大会委員会)
- (41) 国際大会ディレクター会議の開催 (国際大会委員会)
- (42) 国体委員会の開催 (国体委員会)
- (43) 財団法人日本体育協会、日本スポーツマスターズ委員会への出席 (ベテラン委員会)
- (44) 観るテニスの普及 (企画委員会)
- (45) マーチャンダイジング事業化 (企画委員会)
- (46) スポンサー政策の実施 (企画委員会)
- (47) 中長期ビジョンの策定 (企画委員会)
- (48) テニスボランティア・ネットワークの拡充 (プロモーション委員会)
- (49) テニスへの社会的支援者の開拓とその為のイベントの企画・運営 (プロモーション委員会)
- (50) JTA 並びに各委員会の活動 PR 支援及び関連商品の販売支援 (プロモーション委員会)
- (51) クラブ JTA 会員の増強と会員組織ならびに運営体制の整備 (クラブ JTA 推進委員会)
- (52) 倫理規程に関する Q&A 集の作成および編纂 (倫理委員会)
- (53) ジュニアコーチの啓蒙、教育活動の推進 (強化システム委員会)
- (54) 会議の開催 (強化システム委員会)
- (55) 有事における危機管理対策の実施 (危機管理委員会)
- (56) WADA、JADA との関連 (ドーピング判定委員会)
- (57) ドーピング検査陽性反応者発生時の対応 (ドーピング判定委員会)
- (58) ドーピング検査の実施 (ドーピングコントロール委員会)
- (59) アンチ・ドーピングの啓蒙 (ドーピングコントロール委員会)
- (60) アンチ・ドーピング対策 (ドーピングコントロール委員会)
- (61) その他、JTA 専門委員会活動と事業

平成18年度事業計画に基づき、以下の委員会は専門委員会分掌事項に定められた業務を分担遂行した。

総務委員会、広報委員会、選手委員会、医事委員会、国際委員会、テニス資料館準備委員会、IT 企画委員会、国際大会委員会、国内大会委員会、審判委員会、国体委員会、実業団委員会、ベテラン委員会、ベテラン競技委員会、ベテランシステム委員会、企画委員会、プロモーション委員会、クラブ JTA 推進委員会、ジャパンオープン委員会、ナショナルチーム (オリンピック・デビスカップ・ジュニアデビスカップ・ワールドジュニア男子・フェドカップ・ジュニアフェドカップ・ワールドジュニア女子・ユニバーシアード)、強化システム委員会、スポーツ科学委員会、一貫指導体制推進委員会、指導者育成委員会、普及委員会、環境委員会、幼稚園・小学校特別プロジェクト、倫理委員会、危機管理委員会、ドーピング判定委員会、ドーピングコントロール委員会

以上

財団法人日本テニス協会 平成18年度 事業報告書

総務本部（本部長：内山 勝）

総務委員会（委員長：秋田 修廣）

1. テニスに関する用具の認定、公認

当該期間中に以下、公認・推薦申請（合計46社）を処理した。

- (1) 公認：ボール7社10球
- (2) 推薦：ラケット、ウェア、コート、シューズ、シューズインソール、ネット、ストリング、ラインテープ、スポーツコンタクト、スポーツサングラス、低周波治療器、健康補助食品 計39社

2. JTA表彰

表彰規程に基づき表彰者の選定を行った。

功労賞19名、企業賞11社、優秀団体賞1校、優秀選手賞1名、ジュニア大賞1名、1チーム（3名）、優秀審判員賞2名、優秀指導者賞1名、メディア賞1社に対しては、平成18年5月30日（火）岸記念体育会館「スポーツマンクラブ」において表彰伝達式を行った。

3. オリジナルコーチの表彰

ジュニア育成・普及コーチ奨励金制度に基づき表彰を行った。

3名に対しては、平成18年11月13日（月）全日本テニス選手権大会のレセプション会場の東京ベイ有明ワシントンホテル3階アイリスにおいて表彰式を行った。

4. 特別表彰

表彰規程に基づき特別表彰として、引退した浅越しのぶ選手・加藤純選手に対しその功績を称え、平成18年11月19日（日）全日本テニス選手権大会の会場にて表彰を行った。なお、同じく引退した特別表彰対象の小畑沙織選手は都合がつかず、別に表彰の場を設けるとする。

5. 選手報奨金の授与

選手報奨金規定に基づき表彰者の選定を行った。

年間表彰者女子5名に対しては、平成18年11月13日（月）全日本テニス選手権大会のレセプション会場の東京ベイ有明ワシントンホテル3階アイリスにおいて報奨金の授与を行った。

6. 諸規程の新設・改定

諸規程の新設ならびに改定を、平成18年度中に合計8件行った。

7. 各種イベント後援申請等の審査

関東テニス協会から「第19回関東車いすテニス大会」の推奨申請をはじめとして、年間8イベントの後援、公認を審査し常務理事・本部長会議に上程した。

広報委員会（委員長：八田 修孝）

1. ホームページによる JTA 情報発信

毎日6万強のアクセスがあるJTAホームページを、利用者がよりわかりやすく、便利でさらに興味を持ってもらえるような、最新でニーズにあった情報を随時更新に務めた。今年度より【JTA OFFICIAL BLOG】を立ち上げ、4大会及び国別対抗戦、国内主要大会への記者派

遣も含め、日本人選手の海外での活躍や、国内主要大会の報道にも積極的に行った「平成18年度掲載記事数286件」。

2. 動画配信サイト「TENNIS ONLINE」の運用

国内開催の主要大会を映像に収めインターネットでの動画配信を行う TENNIS ONLINE。取材・編集などに経費が掛かるため課金方式を採用（月額¥420-）。今まで映像として見るのでできなかった全日本テニス選手権、日本リーグなど、国内大会の初回戦から、また一般愛好家に関心のあるダブルスなどを配信すると共に、ナショナルチームの練習を紹介するといったレッスンコンテンツも視野に入れ制作をおこない、配信。また、今年度より WOWOW 社から動画コンテンツの提供を受け、全豪、全仏、全米の日本選手試合の配信も開始した。

3. メールマガジンの発信

メールマガジン「テニスファン」を継続的に発信し、またデ杯、フェド杯、全日本、AIG OPEN など主要大会では毎日速報を発信しテニスファンへのサービスを行った。平成18年度通算配信数「108本」「2007年3月末登録者は約11000名」

4. メディアメールの発信

報道関係者（新聞、テレビ、ラジオ、テニス専門誌等々の媒体）に対しより効率の良い情報発信として、インターネットを利用したメディアメールをより頻度を上げて配信した。従来の記者発表や記者クラブ掲示に加え、より正確、敏速な情報発信が出来るようになった。

5. JTA NEWS の発行

JTA NEWS をアニュアルレポートとして8月に発行した。各役員、本部長、委員長などの事業計画、報告や前年度の収支決算などが報告されている。その内容はホームページにもアップされている。発行部数は11,000部で都道府県協会及び関連団体に配布され、広報誌としての役割を果たしている。

6. テニスプレーヤーズガイドの発行

東京運動記者クラブ・テニス分科会のご協力により編集。マスコミ、メディア向けのみならずイベントの企画運営を行うスタッフ一般愛好者むけのガイドブックとして、1000部を発行した。

7. プログラム、ポスター、チラシ等の企画、発行

フェド杯、全日本、ジャパンオープン等の主要大会のプログラム、ポスター、チラシ等の企画・発行を広報委員会主体の作業として扱い、将来の一貫した JTA ポリシーを入れる企画、編集で作成した。

8. プレスルームの運営

全日本選手権、AIG OPEN、デ杯、フェド杯などの主要大会のプレスルームの管理運営を行った。今年度から運用した「ライブスコア」のコンテンツ部分のサポート。この他大会のデイリープログラム。メディアガイドも責任編集。また選手入場時のプロフィールを作成。ホームページのコンテンツ更新を含め、円滑な情報発信を行えるように努力した。

【総括】

広報委員会では今年度、上記項目を主な仕事として活動いたしました。中でも JTA ホームページ（動画サイト、ブログを含む）の質的な向上と維持管理が、一般テニス愛好家を含め、日本テニス協会関連各位への情報発信として最大のツールとの認識で、サーバーの移行を含め大規模なリニューアルを致しましたが、動的コンテンツでは完成型にはほど遠く、よりいっそうのボリュームアップが求められています。私たちは日本テニス界でリーダーシップを持てるサイト構築を念頭に置いて活動してゆくべく、より広範囲に活動する努力を続けたいと思います。ATP や WTA ではコミュニケーションというセクションで活動していますが、我々広報委員会は、日本テニス協会（各本部、各委員会）から配信される多くの情報を、各地域・都道府県協会、選手、メディア、一般テニス愛好家の方々に様々な形で伝達すること、なかでも、日本テニス協会や日本選手とテニスファンとの間のパイプ役となることを最大のテーマとして活動します。

選手委員会（委員長：右近 憲三）

1. プロフェッショナル選手の登録管理

- (1) プロフェッショナル登録レベル分け、登録証の発行、新規プロフェッショナルの承認
平成18年度プロフェッショナル登録者…256名（平成19年3月31日付登録料納入者）
内、新規登録者……30名
平成18年度プロフェッショナル登録料＜合計＞ 256名 1,445,000円
10,000円 × 33名 = 330,000円、5,000円 × 223名 = 1,115,000円

レベル	トーナメントプロフェッショナルプレイヤー	レジスタートプレイヤー	合計
男子	52	117	169
女子	50	37	87
合計	102	154	256

- (2) アマチュア復帰申請に対する実績審査、承認
平成18年度アマチュア復帰者…4名

2. 新規プロフェッショナル対象研修会の開催

プロフェッショナル登録者は、プレー中はもちろんコート外でもプロテニスプレイヤーとしての自覚を持ち、マナー・礼儀・挨拶・身だしなみのしっかりとした誰からも尊敬される選手になってもらうという目的のもと、第1回新規プロフェッショナル対象研修会を平成18年11月20日（月）、岸記念体育会館にて開催した。今回の参加者は、過去3年間に新規プロ登録した選手45名とプロ登録申請中のアマチュア選手1名（12月に承認）の合計46名であった。直前に行なわれた全日本選手権大会での優勝者3名を含め、高校生からベテラン選手まで多くの選手が集まった。盛田会長のご挨拶に始まり、プロとしての心構えや社会人としての一般常識・モラル、メディアやスポンサー対応、ルール・スケジュール管理などについて、小浦ゼネラルマネージャー、佐藤政廣常務理事、福井アシスタントマネージャー、八田広報委員長、川廷審判委員よりご講演を頂き、渡邊専務理事のアンチ・ドーピングのお話とご挨拶で閉会した。7時間に及ぶ長い研修会だったが、選手達は皆貴重なお話が聞けて満足と、充実した時間を過ごせたことを喜んでいました。

3. 全日本テニス選手権大会ジュニアクリニックの開催

全日本テニス選手権大会開催中の平成18年11月19日（日）、有明コロシアム・有明テニスの森公園テニスコートを使用して開催する予定であったが、雨天のため中止した。昨年度より大会のタイトルスポンサーが日本毛織株式会社となり、恒例のジュニアクリニックも「ニックジュニアクリニック」の名称で、系列のニックテニスドームのご協力のもとスタッフを大勢サポートして頂き開催するはずであり、応募数100名に対し126名ものたくさんの応募があっただけに残念である。当日ご来場された参加者には入場チケットと参加賞をお渡しし決勝戦を観戦頂いたが、来年は盛大にクリニックを行ないたい。

4. 全日本テニス選手権大会選手ミーティングの開催

全日本テニス選手権大会開催中の平成18年11月13日（月）ウェルカムパーティー終了後、東京ベイ有明ワシントンホテルにて開催した。選手は男子21名・女子14名、コーチ・関係者6名が出席し、盛田会長、渡邊専務理事、矢澤トーナメント本部長、中西大会ディレクター、松野大会レフェリー、右近選手委員長が列席した。選手からも活発な意見や質問が多く飛び出し、短時間ではあったが選手とのコミュニケーションを図る場となった。普段減多に聞けない選手の考えを聞くことのできる貴重な機会であった。

5. 全日本テニス選手権大会チャリティーオークションの開催

全日本テニス選手権大会開催中の平成 18 年 11 月 18 日(土)～19 日(日)、選手から集めたグッズによるチャリティーオークションを行った。オークションは大盛況で、売上金を将来のテニス界を担うジュニア強化に寄付した。

医事委員会 (委員長: 別府 諸兄)

1. ナショナルチームに対するメディカルサポートの充実

1) デ杯・フェド杯チームへのメディカルサポート

①デ杯・アジアオセアニアゾーングループ I 2 回戦対タイ戦

期日: 平成 18 年 4 月 7 日(金)～4 月 9 日(日)

会場: タイ・バンコク

チームオフィシャルドクターとして、奥平修三 Dr と赤池 敦 Dr を派遣。

チームオフィシャルトレーナーとして、山下且義 Tr を派遣。

アシスタントトレーナーとして中尾公一 Tr を派遣。

なお 3 月 29 日(水)には、吉崎堅一 Dr が東山テニスクラブにてメディカルチェックを行った。

②フェド杯・ワールドグループ II 1 回戦・対スイス戦

期日: 平成 18 年 4 月 22 日(土)～4 月 23 日(日)

会場: 東京・有明コロシアム

チームオフィシャルドクターとして、金森章浩 Dr を派遣。

会場ドクターとして、三谷玄弥 Dr、高橋 周 Dr、原田幹生 Dr を派遣。

チームオフィシャルトレーナーとして、村木トレーナー部会長を派遣。

アシスタントトレーナーとして茂木奈津子氏を派遣。

試合当日の後方支援病院として、昭和大学附属豊洲病院に依頼した。

③フェド杯・ワールドグループプレイオフ・対オーストリア戦

期日: 平成 18 年 7 月 15 日(土)～7 月 16 日(日)

会場: 東京・有明コロシアム

チームオフィシャルドクターとして、金森章浩 Dr を派遣。

会場ドクターとして、三谷玄弥 Dr、高橋 周 Dr、原田幹生 Dr を派遣。

チームオフィシャルトレーナーとして、村木トレーナー部会長を派遣。

アシスタントトレーナーとして茂木奈津子氏を派遣。

試合当日の後方支援病院として、昭和大学附属豊洲病院に依頼した。

2. ドクター・トレーナーの派遣

1) 国際大会・全国大会への派遣

①「AIG OPEN」(有明)「全日本テニス選手権大会」(有明)「世界スーパージュニアテニス選手権」(大阪・靱)「全日本ベテランテニス選手権大会」(名古屋)「全日本ジュニアテニス選手権」(大阪・靱)「東レ PPO」(東京体育館)「全国レディーステニス決勝大会」(昭島)等各大会へ、トーナメントドクターおよびトレーナーを派遣した。

後方支援病院としては、都内開催の 3 大会については、昭和大学附属豊洲病院に、大阪開催の 2 大会については大阪厚生年金病院へ、名古屋開催の 2 大会については名古屋第二赤十字病院へ依頼した。

なお、これら大会のドクターは、医事委員会委員・部会員のほか、聖マリアンナ

医科大学、東京医科歯科大学、日本大学医学部、昭和大学医学部藤が丘病院、東京慈恵会医科大学、北里大学医学部、東海大学医学部、茨城医療大学、筑波大学大学院、群馬大学医学部、横浜市大医学部、杏林大学医学部、京都市立病院、彦根市立病院、大阪大学医学部、兵庫医科大学、武田総合病院、よしだ整形外科、大阪北通信病院、大阪府立母子保健総合医療センター、奈良県立医科大学、半田市民病院、北斗病院、名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、秋田大学医学部、山形大学医学部、各医局のご協力を頂き、ローテーション体制で派遣した。

また、大会トレーナーのみを派遣した大会等は、「イザワクリスマスオープン」(神戸)「ユニバーシアード」(トルコ)「東アジア競技会」(マカオ)「全日本学生テニス選手権大会」(昭島)「全日本学生室内テニス選手権大会」(尼崎)「全日本学生大学対抗テニス王座決定試合」(岐阜)「日韓テニストップジュニアキャンプ」(湘南・SSC)「全日本ジュニア選抜室内テニス選手権大会」(江坂)「トヨタジュニア選手権」(名古屋東山)「ジャパンオープンジュニア選手権」(名古屋東山)「全国中学生テニス選手権大会」(名古屋)である。

- 2) 指導者講習会等への講師派遣
- 3) 「地域ジュニア選手トレーニング・測定合宿」へのドクター派遣

3. テニス障害の対策

- 1) ドクター・トレーナーによる全国のメディカルサポートネットワークについては、年間を通じて、協力ドクターの増加・充実を図った。
ナショナルチームとの打合せ時にも、「JTA ホームページに名簿を掲載しているので活用方をお願いしたい」とその体制をご説明したことも事もあり、その存在が選手間に少しは知られてきたようである。トップ選手が、医事委員会委員が所属する医療機関に診療を受けに来るようになった。
これは、別府委員長が月に1回国立スポーツ科学センターで診療を行っていることも影響しているものと思われる。更に活用を望みたい。
- 2) メディカルサポート小委員会では、デ杯直前のチーム合宿においてメディカルチェックを行い、結果を直ちに選手に知らせるとともに、把握したデータをコンピューターに入力し、合宿がどこで行われても過去のデータを活用出来るよう整備した。
また、選手にデータを持たせ、海外で診療を受けることになった場合活用できる体制を作った。
- 3) 「テニス・メディカルセミナー」の開催
 - ①「第20回テニス・メディカルセミナー」平成18年7月1日(土)
会場：聖マリアンナ医科大学・別館8階 臨床講堂
講師：真下一策先生 スポーツビジョン研究会 代表
テーマ：「テニスとスポーツビジョン」～眼を鍛えてレベルアップ!!～
参加者：72名
 - ②「第21回テニス・メディカルセミナー」平成18年10月22日(日)
会場：聖マリアンナ医科大学・別館8階 臨床講堂
講師：斎藤明義先生 日本大学医学部附属駿河台病院 整形外科部長
日本テニス協会医事委員会常任委員
テーマ：「テニスにおける膝の障害」～選手生命を脅かす膝の痛み～
参加者：126名
 - ③「第22回テニス・メディカルセミナー」平成19年3月17日(土)
会場：聖マリアンナ医科大学・別館8階 臨床講堂
講師：石井朝夫先生 筑波大学人間総合科学研究科臨床医学系 整形外科助教授

テーマ：「スポーツ選手の足関節捻挫～なめてかかるな！足首の捻挫～」

参加者：62名

4) 熱中症対策の実施

①夏の大会に対する熱中症予防支援資料の配付

次の大会ディレクター宛に2種の資料を送付し活用を依頼した。

- ・全国小学生テニス大会
- ・全国高等学校テニス選手権大会
- ・全日本学生テニス選手権大会
- ・全日本ジュニアテニス選手権大会
- ・全国中学生テニス選手権大会

日本体育協会作成「熱中症予防パンフレット」を大会規模に応じ、200冊から700冊を送付。医事委員会・トレーナー部会作成「熱中症予防および具体的対策に関する掲示物(昨年度作成したものにセルフチェックの項目を追加)」をそれぞれ4セットずつ送付。

②併せて、大会プログラムに掲載する熱中症予防啓蒙記事「夏のテニスには、水が”命”!!」の原稿を送付し掲載を依頼した。

③各大会を担当するトレーナーに対し、村木部会長から熱中症予防対策の徹底を具体的に指示し、審判・大会関係者へのアナウンスも依頼した。

5) 自動体外式除細動器(AED)の諸大会への配備

「フェド杯」「ダンロップ全日本ジュニアテニス選手権大会」「全国中学生テニス選手権大会」「AIG OPEN」「全日本ベテランテニス選手権大会」「ニック全日本テニス選手権大会」「全国レディーステニス決勝大会」各大会に配備した。

4. 選手の痙攣防止対策の立案・提言

5. スポーツビジョン(スポーツに必要な視覚能力)の啓蒙と普及

6. トレーナー業務の整備・充実

1) トレーナー部会の開催

第1回 JTA 医事委員会 トレーナー部会を開催した。

期日：平成19年3月17日(土) (メディカルセミナー開始前)

会場：聖マリアンナ医科大学・別館8階 臨床講堂

参加者：村木良博部会長、三木裕昭、中尾公一、大久保智子、田中芳郎

2) 日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成講習会への推薦

平成18年度の養成講習会には、日本体育協会へ推薦提出していた藤本義人氏が受講内定者として決定した。

平成19年度の養成講習会には、工藤健正氏、長田瑞絵氏、田中芳郎氏の3名を推薦した。

7. 地域メディカルサポート体制の整備

1) 全国のドクターの協力体制を強化するため、テニス・メディカルセミナーの資料や委員会議事録を配付するとともに、協力を求めた。

メディカルセミナー後に開催の3月17日全国委員会にも参加を求めた。

なお、学会等の機会にテニスを愛好されるドクターに、医事委員会の事業へのご協力をお願いした。

2) 日本体育協会の公認スポーツドクターとして、新たに加藤敦夫 Dr、金森章浩 Dr、

柳下和慶 Dr の 3 名が認定された。

- 3) 日本体育協会の公認スポーツドクター養成講習会につき、今後協会の業務にご協力頂けるドクターに候補者として応募頂き選考のうえ、岩瀬春子 Dr、平良勝章 Dr、高橋 周 Dr、鈴木昌和 Dr、鈴木桂子 Dr、加藤有紀 Dr、計 6 名の推薦を行い日本体育協会より受理された。

8. テニス医学情報の収集

- 1) 「STMS (Society For Tennis Medicine And Science) 9 th international Congress」平成 19 年 2 月 16 日～17 日にアントワープで開催された国際会議に、別府諸兄委員長・金森章浩委員・三谷玄弥委員の 3 名が参加し、スポーツ医学の最新情報を収集した。また、別府委員長はテニス肘を演題とし報告した。

9. テニス障害の情報発信

- 1) JTA ホームページ経由や、テニス・メディカルセミナー参加者等 5 名の方から医事委員会宛、テニス障害について照会・相談があったが、それぞれ具体的な回答を行うと共に、診療の必要な方については、医事委員会メディカルサポートネットワークを紹介し治療を受けて頂いた。
- 2) テニス雑誌社 5 社に対し、主としてメディカルセミナーの情報を定期的に提供し、活用頂いた。
- 3) テニス・メディカルセミナーの CD-ROM の頒布
今年度開催された第 20 回・第 21 回・第 22 回のテニス・メディカルセミナーの CD-ROM を制作中である。既制作済みの第 8 回～第 13 回の CD-ROM については、テニス・メディカルセミナー開催時会場にて販売すると共に、AIG OPEN 等の JTA コーナーで一般の方々にも販売した。また、JTA ホームページにてその内容を紹介しているが、全国各地からお申し込みを頂き、セミナーに時間・地理的に参加出来なかった方々にも最新のスポーツ医学の知識とノウハウを提供することが出来た。

10. テニス医学に関する洋書の翻訳出版

「From Breakpoint to Advantage :A Practical Guide to Optimal Tennis Health and Performance」(2004 年 9 月出版されたテニス医学の洋書)をスポーツ医学の最新知識の普及を図るため、医事委員会委員等 3 4 名の方々に翻訳を分担頂き日本語訳し、「テニスパフォーマンスのための医学的実践ガイド」として 9 月に発刊した。
JTA ホームページにてその内容を紹介・販売するとともに、テニス・メディカルセミナーにおいても販売、AIG OPEN・全日本テニス選手権大会等の JTA コーナーでも紹介した。また申込書を兼ねたチラシを作成し、全国のスポーツドクター・指導者等の発送物に同封し、広く頒布を図った。

国際委員会 (委員長: 内山 勝)

1. 国際テニス連盟及びアジアテニス連盟、日本オリンピック委員会他団体の会議出席、並びに行事への参加。海外各国協会、大会への協力活動、及び関係者への対応と情報伝達

(1) 国際会議への派遣

1) 国際テニス連盟 (ITF) 関係

- ①総会: 2006 年 8 月 24 日～27 日 於: ソウル
出席: 渡邊康二 (JTA 代表)

川廷栄一（ITF 名誉副会長）

内容：大会、行事、財務、その他の報告と提案、討議。規約の改正、
会員資格の認定、競技規則の変更等を承認。

②委員会：・オリンピック委員会 6月30日 於：ロンドン

出席：川廷栄一

・男子サーキット委員会／男子チャレンジャー委員会

6月23日～29日 於ロンドン

9月1日～3日 於ニューヨーク

出席：川廷尚弘

・R&R 会議 7月5日 於：ロンドン

12月6日 於：ロンドン

出席：川廷栄一

・北京五輪組織委員会合同会議 11月10日～12日 於：北京

・北京五輪組織委員会・会場視察平成19年3月8日～11日於：北京

出席：川廷栄一 I T F テクニカルデレゲイツ

③事務局：川廷尚弘がアジア地域エグゼクティブとして、各国協会の組織指導、
大会協力、審判講習会等に従事。詳細は別記の通り

2) アジアテニス連盟（ATF）関係

①総会（全体会議）：8月23日 於：ソウル

出席：渡邊康二（JTA 代表）

川廷栄一（名誉会長）

総会：平成19年3月25日～26日 於：バンコック

出席：内山 勝（JTA 代表）

川廷栄一（名誉会長）

川廷尚弘（ITF アジア地域代表）

役員改選でカーナ会長再選、内山理事に選出（トーナメント委員長
に就任）

川廷尚弘審判委員長再任

3) 国際学生スポーツ連盟

①年次総会：4月24日～26日 於：バンコック

出席：川廷栄一（テニス委員長）会則の改定、会場計画検討

②運営委員長会議：4月27日～29日 於：バンコック

出席：川廷栄一（テニス委員長）競技規則、日程決定

2. 海外国際大会への出席及び運営参加

(1) 国際テニス連盟（ITF）関係

・デ杯 日本対タイ 4月5日～8日 於：バンコック

出席：川廷栄一（JTA／ITF）

テニス資料館準備委員会（委員長：宮城 黎子）

事業区分：11

事業名：1. テニス資料館（ミュージアム）設置に向けた広報活動ならびに史資料の収集・整理・活用

2. AIG ジャパンオープン開催時などにテニスの歴史展開催

事業内容：将来の「テニス資料館（ミュージアム）」設置を目指し、段階的な具体化準備および啓

蒙活動として以下の事業を行った。

1. テニス資料館（ミュージアム）設置に向けた広報活動ならびに史資料の収集・整理・活用

(1) テニス史資料の収集・整理とデータベース化

- 1) 平成 18 年 7 月 28 日を中心に、JTA 地下倉庫保管史資料を整理し、書架別に分類した。
- 2) 分散していた写真史資料を JTA 地下倉庫に集め、保存ファイルに分類する作業を継続した。
- 3) ラケットなど物資料の寄贈申し込みに対する受け入れ準備を継続した。
- 4) テニス専門誌バックナンバーの収集・整理を継続した。
- 5) JTA 年表、テニス関連文献資料などのデータベース化作業を継続した。

(2) 特別企画によりテニス史動画映像のデジタル映像化

- 1) JTA 所蔵テニス記録映画フィルムのうち 44 タイトルの内容を専門業者の協力を得て点検・下見した。
- 2) フィルム劣化、内容重複などを除き、11 タイトルを選んでデジタル映像化（マザーテープ作成）して、資料 DVD/VHS として保存した。
（下見・点検後の映画フィルムは安全保管のため国立フィルムセンターに寄贈予定）
- 3) リール・テープなどに保存されていた歴史記録映像 6 タイトルを資料 DVD/VHS として保存した。

(3) 広報活動

- 1) テニス絵はがきや資料 DVD/VHS 販売による PR と活動資金集めをした。
- 2) 地域協会・都道府県テニス協会宛に文書を送り、資料所在情報の収集についてお願いした。
- 3) 日本女子テニス連盟などの会報に PR 文書を掲載していただいた。
- 4) 広報委員会の協力を得て JTA 公式ホームページ内に「テニス資料室」ページを開設し、テニス史情報などを公開した。
- 5) その他、協会内外からのテニス史に関連する問い合わせに対して調査し、回答した。

2. AIG ジャパンオープン開催時などにテニスの歴史展開催

(1) AIG オープン期間中に、常設展「写真で見る日本のテニス史展」、「ジャパンオープンの歴史展」、および特別企画展「映像の日本テニス史展」を開催

- 1) 会場にモニター画面を設置して特別企画によりデジタル化した動画映像を公開した。
- 2) 各方面の協力を得てテニス人形、木製ラケット、テニス記念品などを拝借し、ミュージアムの展示を行った。

(2) 地域行事、イベント会場における歴史展示に協力

- 1) ダイジェスト版日本テニス史資料データ原稿を作成した。
- 2) 「有明テニスの森公園・テニスのゆうべ」、「グラスホパー全国ジュニアテニス in 佐賀」、日本プロテニス協会行事に協力して資料を提供した。

トーナメント本部（本部長：矢澤 猛）

IT 企画委員会（委員長：八田修孝）

事業名：JTA 公式サイト専用のウェブサーバ構築

事業内容：インターネットでの JTA 発信の情報のニーズが年々高まりかつ多様化し、その責務に応じたウェブサーバの構築が急務であった。

1. サイトのアクセス数

平成 18 年度の 1 日の平均アクセス数からもインターネット、JTA 公式サイトの重要性が高まっていることが分かる。

H18 年度 JTA 公式サイトアクセス状況 (ページビュー : PV 数)

年月	PV 数/1 日平均
H18 年 04 月	43,053
H18 年 05 月	44,753
H18 年 06 月	43,172
H18 年 07 月	54,141
H18 年 08 月	88,853
H18 年 09 月	134,326
H18 年 10 月	356,004
H18 年 11 月	129,928
H18 年 12 月	46,908
H19 年 01 月	47,147
H19 年 02 月	58,962
H19 年 03 月	53,092
H19 年 04 月	63,863

2. JTA 公式サイトからの発信の充実

各委員会のサイト/ページ発信のみならず、JTA ランキングへ移行した「ランキング」のほか、「トーナメント」、「国内海外レポート」、「公式メールマガジン Tennis Fan」、「思い出の試合」、「JTA ビデオレポート」、さらに「テニス記録室 (H19 年度からテニスミュージアム)」、「スポーツ科学情報」などの追加も行われた。「出版物」での JTA 頒布物の受注・頒布は一般化している。「キッズテニス」もプロジェクトの発展に大きく寄与している。

3. サーバの増強

AIG オープン 2006 開催時にはレンタルサーバの転送限界を超え、急遽専用サーバ 4 台体制に変更し乗り越えることとなった (他にライブスコアサーバも 3 台体制)。その後は、国別対抗戦、ライブスコアに備えて常時 2 台体制で運用を続けている。2007 年度は常時 3~4 台、AIG オープン時には 4~5 台に増設するのが望ましいと思われる。テレビで見ることのできない選手の素顔や試合風景を見ることができる「JTA ビデオレポート」は好評であるため、動画配信能力をキープするためにもサーバ増強も進めたい。

4. 「ナショナル」

JTA 公式サイトを通じた情報提供が進んだ中で、懸案であった「ナショナル」は、本年度も構築することができず、ナショナルチーム、ナショナルチームの活躍する大会、強化育成等の重要な情報提供ができなかったことは、かえすがえず残念である。

しかしながら、選手強化育成・ナショナルチーム強化育成・ジュニア育成については H19 年度、「強化普及」として、委員会独自のサーバ運営をすすめる計画である。この運営に関して JTA 公式サイト全ページからのリンクを行うなど実施する予定。

5. ダイナミックなサイトへ

また、JTA 公式サイト自体を広報的な情報提供という現状から、「生の選手・大会の情報を届け

る」体制への転換についても、少しずつながら進展した。

「AIG オープン」公式サイトは、大会の前後に渡って情報をタイムリーに伝えるべく新サイトとしてリニューアルした。また、ワールドグループ入りを狙う「デビスカップ」ワールドグループで戦う「フェドカップ」両国別対抗戦については本来の計画の前倒し的に「AIG オープン」に準ずる公式サイトをオープンした。これらは概ね好評のため、H19 年度は「ニック全日本テニス選手権」サイトを含め、この体制を発展させる予定である。

6. JTA 公式テニスマガジン

「TennisFan」についても順調に運営・運用できた。大会の当日中に記事の配信をするなど、タイムリーな情報を継続的に提供できた意義は大きい。しかしながら 1 万 1 千件近い読者への配信は現状のシステムでは非力となっている。大会後の配信でも 4 時間から 5 時間かかる状況で、当日中に情報提供することができないことがままあった。また、記事の文字エンコーディング対応が足りず、ShiftJIS で配信されることもあった。複数の記者の作成する原稿を短時間で集約する必要のある本メルマガにおいては、十分なチェック機能が必要である。

H19 年度は早期にメールマガジンサーバソフトウェアの強化にかかりたい。

事業名：Windows サーバレンタル < www.tennis.or.jp >

事業内容：「日本の公式テニスサイト」、「テニスの日」、「日本女子テニス連盟」、「JTA 実業団委員会」、「日本リーグ」、「全国実業団対抗テニス大会」、「全国実業団対抗テニストーナメント」を公開するサーバ。Windows 系サーバを必要とするサイトのために稼働している。

1. 運用の状況

各コンテンツは、前年に引き続き、サーバ運用を順調に行った。サーバレンタル会社の方針で、セキュリティが強化されたために更新が難しくなるなどの問題もあった。

2. サーバ移転

Windows サーバへの要望があったため、Windows 2003 Server 系のレンタルサーバを利用しているが、「パッシブ FTP できない」、「遅い」、「複数のユーザ、パスワードを設定できない」など運用面で利用者の不便をきたしているため移転を検討したい。

3. ドメインの問題

「TENNIS.OR.JP」は本来「テニス事業者協会」の名義であるため JTA では自由に運用できないという問題点が明らかになった。ドメインの譲渡は難しいため、H19 年度は「テニス事業者協会」の同意の下、サーバの移転などの作業を進める必要がある。

事業名：JTA ランキング更新

事業内容：4 月より、現行の JTP、JOP のランキングを JTA ランキングへ統合スタート。全国多数の登録会員へのポイントとランキングを Web にて情報提供する。

現在、Web 業者に対して Excel 形式で提供しているランキング情報を直接 HTML 形式で提供することで、閲覧可能な多数の HTML への変更を手動作業していることにかかるコストと時間を低減することを検討。

「JTA ランキング」移行後も順調にランキング情報提供が行われた。しかしながら、公開のための作業に依然として手作業に頼る部分が多く、本来機械化可能な工程を、選手データベースからランキング集計を含めたシステム化を進めるべきと痛感。

「ベテランランキング」、「サスペンションポイント」についても同様。

事業名：サーバーサポート・保守

事業内容：JTA のサーバはサーバレンタル業者に月極でレンタルしている。レンタル費にはセキュリティ機能、アクセス分析機能のオプションが追加されている。

また、サーバのコンテンツのアップ、更新、システム保守を業者に委託している。レンタルサーバではサーバ業者はコンテンツの保守・維持を一切行わないため、Web とメールの両方で常時維持作業が必要になる。特殊な技術を必要とするため、外部委託が適当と判断している。業者への管理委託費用は現時点で特に支払わず、個別のコンテンツ更新依頼に含める形になっている。メールのアカウント管理は事務局にて実施しており、別途費用は発生しないようになっている。

H17 と同様。H19 にはサーバ増強とともにサポート強化を図る。

事業名：ファイル共有サーバ新設

事業内容：事務局内、委員会、多数の委員、ボランティアとの情報共有において、従来のメール、ディスクによるやりとりでは煩雑で混乱しやすく、なんらかの解決策を検討している。また、個別のパソコンがウィルスや、ウィルスメール、不具合などでトラブルを起こすこともあり、個別のパソコンにだけ情報を保存することによる情報喪失の危険を回避する必要性もでてきている。更に、個人情報保護法の求める要件を満たすために、パソコンの利用、情報の利用に際して、ユーザ名とパスワードを求め、秘密を守ることを可能にする必要性も高い。

これらの解決を図るために、新たに JTA 事務局内に「JTA 情報共有サーバ」を設置し、関係者全員があらかじめユーザ名とパスワードを決めた状態で、情報の保管・管理・共有を可能にする仕組みを構築することを検討した。ユーザ 1 名あたり 2 万円から 2 万 5 千円程度の費用が必要となるが、情報管理の重要性を鑑み、「JTA 情報共有サーバ」とバックアップ装置、高速インターネット接続の仕組みを整備することを検討した。

現在の Windows サーバ（旧 JTA サイトのサーバ）の利用を続けている。H18 には実現しなかったがいずれ必要となるため運用状況を見ながら更新を検討する。

事業名：ファイル共有サーバレンタル

事業内容：「JTA 情報共有サーバ」は、その用途を考えると JTA 事務局内に設置するのが最適であるのは明らかだが、管理ノウハウの有無、設置コスト（場所）等を考慮すると、レンタルによる運用を検討する必要がある。現時点で、適切な機能を有したサービスが存在しないこともあり、協力企業との協議を重ねて、管理代行・設置管理代行（ハウジング）できるよう検討中である。

H18 には実現しなかったが、外部スタッフとの情報共有・ファイル共有は必須の状況にあるため、H19 には是非予算化したい。

事業名：JTA 公式ライブスコアの運用

事業内容：AIG オープン 2005 からスタートした JTA 公式ライブスコアの運用体制の確立、審判員や大会運営スタッフへの理解度向上のための施策を行う。また、安定的システム運用のためのメンテナンスなども行う。

1. サーバ構成

jta-tennis.or.jp の 3 台の WEB サーバ、DB サーバ 1 台、入力サーバ 1 台、Flash スコアボード 2 台の臨時構成で臨んだ。

来年度 H19 には、Flash スコアボード専用のサーバを 1 台増強したい。これまでは 日本ヒューレット・パッカー様よりご提供いただいているが、高性能のサーバ機の手配ができなかった。確保のための関係構築が必要。

2. 回線について

jta-tennis.or.jp のラピッドの1回線、スコアボード用サーバー1台のブロックの1回線、JTA テニス!オンラインの回線、コバルトが所有するデータセンターのラック用1回線、インターナップ社ご提供1回線。計5回線を使用した。

インターナップ・ジャパン様からのご提供を受けたが、特に全日本におけるアクセス数が提供者にご満足いただけるものではなかった。

3. PDA および通信カード

PDA は全て日本ヒューレット・パッカーからの15台に臨時で5台、通信カードは、WILLCOMのレンタルサービスで15台。

PHS を使用した通信には、安定性などの問題があり、特に AIG オープンの高負荷時には、データ転送の不調などによって小さいながら幾つかのトラブルが発生している。H19 年度には AIG オープン・全日本までに会場内での無線 LAN の完備が望まれる。

4. クライアントソフト

対応する試合形式・ルールの追加対応が必要である。H19 年度早々に、ダブルスの試合用の仕組みの修正、および8ゲームマッチ（女子ダブルス予選）への対応を進めたい。

5. その他

全日本においては、主に審判員のシステムに対する理解を深めるため、また運営スタッフとのコミュニケーション向上のため、システムに対する希望などを伺った。H19 以降、審判員のリクエストに応えるためのシステム改修にかかる費用を予算化したい。

大会情報、OOP 作成、スコアシート印刷などを大会運営側で使用していただき、よりスムーズでシステマティックで無駄のない大会運営を目指したい。

「日本代表を応援しよう」という動きを活発にするため、デ杯、フェド杯における JTA 公式ライブスコアの運用を予算化した。

来年度は日本リーグ、全日本ジュニア、チャレンジャーやフューチャーズ、サーキットなどの大会において、各大会の運営スタッフによって運用していただける基盤を作りたい。

事業名：[JTA テニス!オンライン]のインテル社との共同マーケティング

事業内容：[JTA テニス!オンライン]を通して、インテル Viiv テクノロジー搭載パソコンの普及のためのプロモーションを行う。プロモーションにかかる費用をインテル社にご提供いただく。

1. [JTA テニス!オンライン]の Viiv バージョンの開発

『Viiv™ゾーンおよびマイクロソフト®・メディアオンラインのメニュー』（インテル社の「Viiv™テクノロジー」が搭載されたパソコンで映画・ゲーム・ビデオなどが簡単なリモコン操作で選べるサービス）に加えるため、[JTA テニス!オンライン]の Viiv 版を開発した。

USEN の gyao や BIGLOBE ストリームなどのエンタメ系やロイターなどの情報系、ファイナルファンタジーなどのゲーム系などがそのメニューに並ぶが、スポーツ系ではわが財団法人 日本テニス協会の[JTA テニス!オンライン]が最初の登場になる。

また、Viiv1.5 バージョンへの対応を実現したコンテンツは、世界で2番目、日本では1番目である。

2. インテル Viiv テクノロジー搭載のパソコンを著名テニスクラブ、テニスショップに配置

[JTA テニス!オンライン]を常時上映するためのインテル Viiv テクノロジー搭載のパソコンに[JTA テニス!オンライン]の販促パネルを施し、広くテニス愛好家の目に触れるための施策を行った。

3. AIG オープン 2006 における[JTA テニス！オンライン]ブースの展開

屋外コンテナブースにおいて、[JTA テニス！オンライン]をインテル Viiiv テクノロジー搭載のパソコンで上映。[JTA テニス！オンライン]の見放題キャンペーンなどを展開。

リーフレット配布 11,250 枚、携帯クリーナー配布 3,000 個、Viiiv 体験 352 名。

4. ニッケ全日本テニス選手権 81st における[JTA テニス！オンライン]ブースの展開

AIG とほぼ同様の内容。

事業名：スマートデジタルライフ推進プロジェクトへの参画

事業内容：インテル、マイクロソフト、ビットワレットの 3 社が 2006 年 6 月に発足させた「スマートデジタルライフ推進プロジェクト」の協力企業として[JTA テニス！オンライン]が参画し、非接触 IC カードによる少額決済などを実施してゆく。

1. [JTA テニス！オンライン]の Edy による決済

同プロジェクトからのサポートを受け、[JTA テニス！オンライン]の決済を Edy で行えるように改修した。

今後普及が見込まれる Edy による決済を実施することで日本テニスの認知を高めるとともに、業界でも注目度の高いプロジェクトに参画しているコンテンツとして、同プロジェクトのパブリシティ活動などでの[JTA テニス！オンライン]の露出の機会を創出する。

国際大会委員会（委員長：畠中 君代）

1. 各種国際大会の主催ならびに後援・公認

〈男子大会〉

- ①有明男子フューチャーズ F1(東京/4 月 11 日～16 日) *新設
- ②甲府男子フューチャーズ F2 (甲府市/4 月 18 日～23 日)
- ③静岡男子フューチャーズ F3(静岡/4 月 25 日～30 日)
- ④サニックス男子フューチャーズ F4(宗像市/5 月 23 日～28 日)
- ⑤サニックス男子フューチャーズ F5(宗像市/5 月 30 日～6 月 4 日)
- ⑥軽井沢男子フューチャーズ F6(軽井沢町/6 月 12 日～18 日)
- ⑦草津フューチャーズ F7(草津町/6 月 20 日～25 日)
- ⑧昭和の森男子フューチャーズ F8 (東京/6 月 27 日～7 月 2 日)
- ⑨神戸男子フューチャーズ F9 (舞洲/大阪 9 月 12 日～17 日) *新設
- ⑩札幌男子フューチャーズ F10 (野幌市/9 月 19 日～24 日) *新設
- ⑪TTC かしわオープン男子フューチャーズ F11(柏市/10 月 17 日～22 日)
- ⑫住環境フューチャーズ F12 (東京/10 月 24 日～29 日)

〈女子大会〉

- ①東レ パン・パシフィック・テニス (東京/1 月 31 日～2 月 6 日)
- ②カンガルーカップ国際女子 (岐阜/5 月 3 日～8 日)
- ③福岡国際女子オープン (福岡/5 月 10 日～15 日)
- ④軽井沢国際女子 (長野軽井沢町/5 月 23 日～28 日)
- ⑤草津国際女子 (群馬・草津町/5 月 30 日～6 月 4 日)
- ⑥東京有明国際女子 (東京/6 月 6 日～11 日) *新設

- ⑦名古屋国際女子（名古屋/7月4日～9日）＊新設
- ⑧シーガイアカップ国際女子(宮崎/7月11日～16日)＊新設
- ⑨ベストアメニティカップ久留米国際(久留米/7月18日～23日)
- ⑩帯広国際女子（帯広/8月1日～6日）＊新設
- ⑪昭和の森国際女子(東京/8月15日～20日)
- ⑫埼玉グリーン国際女子（川口/8月29日～9月3日）
- ⑬GSユアサ国際女子（京都/9月5日～10日）
- ⑭広島国際女子(広島/9月12日～17日)
- ⑮セキショウ国際女子（茨城/ 9月19日～24日）
- ⑯東京有明II(東京/9月26日～9月30日)＊新設
- ⑰ゴーセンカップ牧の原国際女子（牧の原/10月18日～23日）
- ⑱浜名湖国際女子（三ヶ日町/4月26日～5月1日）
- ⑲須玉国際女子（山梨/11月1日～6日）

〈ジュニア大会〉

- ①兵庫国際ジュニア大会Ⅰ（三木市/第1週＝8月31日～9月5日）
- ②兵庫国際ジュニア大会Ⅱ（三木市/第2週＝9月7日～12日）
- ③埼玉国際ジュニア大会(川口市/H19年1月10日～14日)

2. 各種国際大会の開催ならびに外国からの選手招聘

〈一般主催大会〉

- ①AIG OPEN 2006
- ②第43回 島津全日本室内テニス選手権大会 2007
（男子 ATP 京都チャレンジャー）

〈ジュニア主催大会〉

- ①JAPAN OPEN JUNIOR 2006 (ITF=G1大会)
- ②大阪市長杯ワールドスーパージュニアテニス 2006 (ITF=GA大会)

3. トーナメント改革の実施

日本人参加選手にとってポイントが効果的に獲得でき、グランドスラムへ進めるように出来る限り効果的大会の配置を検討。18年度はITFレベルの大会を男子12大会、女子18大会開催した。また委員を大会に派遣し、新設大会の打ち合わせやサイトチェックを行い、よりよい大会開催を目指した。

4. 国際大会視察の実施

- 5月：カンガルーカップ(岐阜市)
福岡国際女子（福岡市）
- 7月：名古屋グリーンテニス（名古屋市）
須玉テニスクラブ ATFU14大会（北杜市）
宮崎シーガイア女子大会(宮崎市)
- 10月：牧の原ゴーセンカップ(牧の原市)
浜名湖国際女子
- 3月：京都チャレンジャー

5. 国際大会ディレクター会議の開催

- ① 4月17日：国際大会会議
- ② 6月29日：国内、国際合同委員会
- ③ 8月25日：国際大会日程調整会議
- ④10月20日：国内、国際合同委員会
- ⑤11月16日：国際大会トーナメントディレクター会議

国内大会委員会（委員長：畠中 君代）

【2006 年度委員会会議】

- 2006 年 4 月 18 日 第 1 回国内大会委員会
- 2006 年 6 月 29 日 第 2 回国内大会委員会
- 2006 年 10 月 20 日 第 3 回国内大会委員会
- 2006 年 11 月 29 日 国内大会委員会 日程調整会議

1. 【国内トーナメント（一般大会）の円滑な運営と管理】

- (1) 国内大会の公認ならびに支援
 - 1) 男子シングルス 220 大会
 - 2) 男子ダブルス 191 大会
 - 3) 女子シングルス 182 大会
 - 4) 女子ダブルス 154 大会
- (2) JTT 大会、JOP 大会の整備ならびに日程調整
 - 1) 2006 年 11 月 29 日 日程調整会議を開催
国際大会、JTT 大会、JOP 大会等、カテゴリーを鑑み日程の調整をした。
- (3) 一般アマチュア選手登録の拡充と管理
 - 1) 選手登録システムの提案がなされた。
 - 2) 外国籍選手の取り扱いについて、種々検討を行った。

2. 【新ルールブックの発刊・販売ならびにルールの周知徹底】

- (1) 大幅なルール改正に伴うルールブックの内容およびデザイン刷新
「JTA TENNIS RULE BOOK 2007」の編集、出版
- (2) 新ルールブックの販売

審判委員会（委員長：増田 憲司）

1. 各種大会へのレフェリー・審判員の派遣

年度末に全国の公認審判員 B 級以上の有資格者に大会希望調査を取りまとめ、各大会へベストの審判員を送るべく努力している。長期に亘る予定のため審判員の予定変更が多い。また大会の予算制限によりベストの審判員の派遣が難しく、担当者にとって大変な作業であった。

*各大会の指名主審に任命された審判員は、12 項目からなる「審判員の勤務・環境についてのレポート」を大会毎に提出する。提出されたレポートは次年度のために検討・参考にされる。

*主審・ラインアンパイア派遣数(延べ人数)

大会名	主審	ラインアンパイア
デ杯 大阪	3	66
Fed Cup 東京	なし	84 (4 月と 7 月の 2 回)
全日本選手権	89	379
AIG Japan Open	35	587
他 34 国際大会	1156	1,400
JTT/JOP 国内大会		委員会から派遣者なし

2. 国際審判員・レフェリーの養成事業の実施

①新人のOJT

新人 10 名を OJT のため以下の大会に試験的にレフェリー・主審として派遣した。また、同大会には認定指導員を派遣し、新人の指導・評価を行った。これらの新人のうち 4 名は ITF 主催レベル 2 スクール (6 月インドネシア) に受験し、合格した。また、レベル 3 スクールに 3 名を推薦し、1 名の国際シルバーレフェリー及び 1 名の国際ブロンズ審判員を誕生させた。

日時：9 月・10 月・11 月

場所：茨城・山梨・静岡 (ITF 女子)・兵庫 (Jr.)・長野 (ITF 男子)・東京 (全日本)

参加者総数：10 名

②海外大会への国際審判員の派遣

氏名	ポジション	大会名
川廷尚弘	ゴールドレフェリー	FED CUP(中国)・デビスカップ(香港)・アジアベテラン選手権(タイ)・全米オープン・アジア選手権(ウズベキスタン)・CHINA OPEN・THAILAND OPEN・ブサンオープン
岡村徳之	主審	アジア選手権(ウズベキスタン)・デビスカップ(タイ)・THAILAND OPEN
大原泰次郎	主審・ラインレフェリー	Australian Open・Wimbledon Qualifying・Australia Junior Hard Court East Asian Games・Sydney Medibank Int' ITF \$10K Chinese Women's Circuit 1・ITF \$10K Chinese Women's Circuit 2
松野えるだ	シルバーレフェリー	中国 \$ 25000 Circuit・ベトナム \$25000
小林あおい	レフェリー	中国 \$10000・韓国 \$10000
藪野容子	ライン	オークランド ASB クラシックオープン・Heineken Open
辻村美和	主審・ライン	Australian Open・US OPEN・ドバイ大会・CHINAOPEN
須山亜由美	主審	東アジア大会
山中友子	ライン	ASB Classic・Heineken Open
近藤康幸	主審	東アジア大会
川上由紀子	主審	東アジア大会

3. 審判員・レフェリーの養成事業並びに審判講習会の実施

①C 級審判員認定会

講習会用に OHP を購入し認定員が活用した。また教材を DVD 化した。

認定員：岡村徳之・川廷尚弘・松野えるだ・田中信子・大久保範子・大原泰次郎・八木真理

18 年度、2 名が任命された。光富美穂子 (佐賀県)・辻村美和 (大阪府)

都道府県から JTA に申請書が提出され、認定員を派遣した講習会・及び認定講習会は 26 回開催し、およそ 1000 名の新規審判員を誕生させた。この中から審判員育成として国内で開催される国際大会の主審・ラインアンパイアを経験してもらった。

開催都道府県：福岡・愛知・秋田・京都・滋賀・新潟・広島・神奈川・栃木・東京・大分・青森・石川・茨城・北海道・関東協会・群馬・千葉・秋田・和歌山・埼玉・普及指導員講習会・専門学校・関東学生連盟・日本女子テニス連盟

②B 級審判員認定会

開催日：11 月 25・26 日

開催地：新潟県

合格者：39名

③学連・専門学校生の講習会

7月に関東学生テニス連盟を対象とした講習会を開催した。加盟大学のテニス部から2日間で総計約400名の受講者があった。その中には、その後国際大会で主審・ライン・競技本部で活躍して頂いた方もあった。

専門学校3校は、授業の一環として1年生を対象にC級講習認定会を開催している。

このC級講習認定会を受講した学生にも、Fed・デ杯・全日本・AIG大会の線審・ボーラーで活躍して頂いた。

4. 審判の実態把握ならびに審判員の待遇改善

①日本のレフェリー・国際審判員(ブロンズ以上)が国際大会に対し絶対数が足りないため海外からの徴集している。

②一方、日本では、公認審判員の数に比して更新ポイントが得られる大会の数が少なく、更新時にポイント不足の審判員が多数生じるという構造的な問題がある。対策として都道府県協会、地域協会主催の大会をセルフジャッジではなく審判員が判定する大会とするようJTAは指導する必要がある。

③日本の環境として、平日会社を休むことに限度があるため、会社員の審判員がトーナメント全体を通して勤務することに困難がある状況である。

5. 公認審判員・公認レフェリーの18年度更新登録者管理

①公認審判員・レフェリー18年度更新登録者数

・公認審判員：1409名

・B級レフェリー：220名

6. 「ルールブック2007」発行

長年親しまれて来た「コートの友」が、「JTAテニスルールブック」と名称を替え完全リニューアルした。本のサイズと文字を大きくし、内容もそれぞれの立場に必要な情報を探しやすく再編した。またルールと諸規則は国際ルールと整合性を持たせた。また、同本に対する質問をWEBサイトで受け付けるようにした。

●主なコンテンツ

- 1 テニスのルールとケース(試合でよく起こる例を解説)
- 2 プレーヤーとレフェリーが読む、大会での規則
- 3 大会の主催者とディレクターが読む、大会開催の規程
- 4 JTA ランキングの仕組み
- 5 チェアアンパイアのやり方

国体委員会(委員長：森 清吉)

事業区分：2

事業名：国民体育大会テニス競技の運営

第61回国民体育大会(兵庫県)開催

事業内容：期日：平成18年10月6日(金)～9日(月)

場所：兵庫県神戸市総合運動公園テニスコート
しあわせの村テニスコート

人数：成年男子32都道府県64人、成年女子32都道府県64人
少年男子47都道府県141人、少年女子47都道府県141人
合計410人

内容：テニス競技としては、前年度の合計 462 人から余儀なくスリム化したが、少年男子・女子の全県出場が実現し、参加都道府県の強化事業に一層拍車がかかる大会となった。

また、夏季・秋季大会開催の一本化や中学 3 年生の参加競技の拡充、参加申込の電子化など話題の多い国体であった。

結果は地元兵庫県が総合優勝を果たし、数年前から強化策が実を結ぶとともに、運営も滞りなく前年のリハーサル大会の経験を生かし、無事に終了しました。

事業区分：2

事業名：全日本都市対抗テニス大会の実施

第 30 回全日本都市対抗テニス大会（第 62 回国民体育大会リハーサル大会）

事業内容：期日：平成 18 年 7 月 20 日（木）～23 日（日）

場所：秋田県立中央公園県営庭球場

人数：32 都道府県 32 チーム 合計 384 人

内容：平成 19 年 10 月に開催されます秋田わか杉国体のリハーサル大会として開催しました。6 年前の正規視察より準備を重ね、秋田市、秋田県テニス協会のご尽力により無事終了しましたが、申込には国体とは様式が違いながらも電子化を取り入れるなど随所に工夫が見受けられる大会でした。結果は優勝候補の筆頭である神戸市が 3 連覇を達成しました。来年の本国体では新設の会場を加え開催場所が 2 ヶ所となるため、運営スタッフの人数の確保が重要である。

事業区分：2

事業名：第 30 回全日本都市対抗テニス大会の準備等

事業内容：上記大会抽選会および会場最終視察ならびに開催準備

期日：平成 18 年 6 月 20 日（火）～21 日（水）

場所：秋田県秋田市

出席者：森 清吉、杉澤雅敦、鈴木 宏

事業区分：2

事業名：第 67 回国民体育大会（岐阜県）第一回中央競技団体正規視察

事業内容：現存している競技施設の確認と改修計画の聴取による準備状況確認、競技運営の準備状況の確認については、特に競技役員（審判やバールパーソン）の養成計画の聴取、また宿泊、輸送の準備状況、練習コートの配置など、第 67 回国民体育大会成功に向けての正規視察を行った。

期日：平成 18 年 8 月 31 日（木）～9 月 1 日（金）

場所：岐阜県岐阜市

出席者：森 清吉、杉澤雅敦、鈴木 宏

事業区分：7

事業名：財団法人日本体育協会国体委員会への出席

①会議名：平成 18 年度 第 1 回国体競技運営部会

期日：平成 18 年 6 月 15 日（木）

場所：岸記念体育館 504・505 号会議室

出席者：森清吉国体委員長

内容：第 64 回国民体育大会開催地（新潟県）の開催決定について
第 66 回国民体育大会開催地（山口県）の開催内定について
第 62 回国民体育大会（秋田県）の実施要項総則（案）について
第 61 回国民体育大会（兵庫県）の参加申込システムについて、その他

②会議名：平成 18 年度 第 2 回国体競技運営部会

期日：平成 19 年 3 月 29 日（木）

場 所：岸記念体育館 理事・監事室
出席者：杉澤雅敦国体副委員長
内 容：国民体育大会の今後の在り方について
参加資格違反に係わる罰則規程等について
国体ドーピング・コントロール検査について、その他

事業区分：6

事業名：国民体育大会・全日本都市対抗テニスサスペンションポイントの制定

内 容：従来から参加選手のモラル・マナー向上を目的として制定を検討していた同制度について、委員会において検討を重ねていたが、現実に参加資格違反が起こったことから不祥事の再発防止を目的として制定を行った。
なお、同制度は国民体育大会・全日本都市対抗テニスでのコードオブコンダクトとして「JTA テニスルールブック 2007」から掲載された。

事業区分：1 1

事業名：国体委員会の開催

①第1回国体委員会

内 容：全日本都市対抗および国体開催の準備状況について、その他。
期 日：平成18年7月21日（金）
場 所：秋田県秋田市
出席者：森 清吉、杉澤雅敦、姫井義也、佐伯洋
全国9地域国体委員、秋田県テニス協会、大分県テニス協会他

②第2回国体委員会

内 容：兵庫県国体開催の準備状況および国体出場者の確認、その他。
期 日：平成18年9月10日（日）
場 所：岸記念体育館
出席者：森 清吉、杉澤雅敦、姫井義也、佐伯洋
全国9地域国体委員、兵庫県テニス協会、秋田県テニス協会他

③第3回国体委員会

内 容：兵庫県国体の準備状況報告、後催県の大会準備報告、その他。
期 日：平成18年10月5日（木）
場 所：兵庫県神戸市
出席者：森 清吉、杉澤雅敦、姫井義也、佐伯洋
全国9地域国体委員、兵庫県テニス協会、秋田県テニス協会他

実業団委員会（委員長：仲島 彰信）

1. 第21回テニス日本リーグの開催

①1st ステージ：平成18年12月8日（金）～10日（日）

会場：横浜国際プール・広島広域公園

②2nd ステージ：平成19年1月18日（木）～21日（日）

会場：横浜国際プール・荏原湘南スポーツセンター

③決勝トーナメント：平成19年2月16日（金）～18日（日）

会場：東京体育館

男子16チーム、女子10チームをそれぞれ2ブロックに分けリーグ戦を行い、男子は各ブロック上位3チーム計6チーム、女子は上位2チーム計4チームによる決勝トーナメントの

実施。試合は2シングルス・1ダブルスにて行う。デ杯選手等日本のトップ選手の出場や高校生日本リーガー杉田選手・小ノ澤選手の参戦もあって大会の話題性と内容が充実し各会場盛況。

東京体育館の決勝トーナメントは、男子は昨年同様、準々決勝から行う。また、日曜の準決勝・決勝戦の試合前にチアリーディングチーム(日本女子体育大学)の演技を開催。ほぼ満員の観客を大いに沸かせた(3日間で1万人超を動員)。準決勝戦および決勝戦・3位決定戦は前大会からの同時試合開始形式で行い、観客の入れ替わりもなく大いに盛り上がった。

また選手入場や閉会式など改善を試みて、更に手際よく体裁が整ったと考える。TVの放映(GAORA)も2回行う。選手・運営・観客の一体化も進んでいる。

1stステージの土曜日に広島会場にて出場選手の協力を得てジュニアクリニックを、決勝の東京体育館では東京都生涯学習文化財団と東京都教育委員会主催の親子クリニックを開催。更に日本リーグ決勝トーナメント観戦招待も引き続き行い、中高生・Jrの来場が増え関心が高まっている。

尚、今後の日本リーグのあり方については、各方面の意見を聞きながら引き続いて検討する。日本リーグ20回記念誌の発刊とパーティーが盛況に開催された。

2. 第20回全国実業団対抗テニストーナメント(A大会)の開催

平成17年10月12日(木)～14日(日)

会場：広島広域公園

日本リーグ昇格チーム決定の大会で、男子16チーム、女子10チームにより行われ、男子上位4チーム、女子は上位2チームが日本リーグ降格2チームと入れ替え戦を行い2チームが昇格。試合は日本リーグと同じく2シングルス・1ダブルスにて行う。

3. 第45回全国実業団対抗テニス大会(ビジネスパル・テニス)の開催

平成18年8月25日(金)～27日(日)

会場：軽井沢プリンスホテルテニスコート 風越公園テニスコート

男子32・女子24チームの1シングルス・2ダブルスによるリーグ戦及びトーナメントを行う。リーグ戦各ブロックの同順位毎にトーナメントを行うため全チーム2～3日間にわたり試合を行う。

実業団の普及大会であるがレベルは年々向上。選手間の交流も深まり交流試合にまで発展している。楽しい大会として熱気も高まり、特に懇親パーティーは大変盛り上がり好評。

[問題点]

以前から問題となっている、A大会に参戦する女子チームの減少は依然として兆候があるが、補強選手登録制度を利用したチームも増え何とか留まっている。

日本リーグの開催期間がオーストラリアンオープンと重なり、主力選手が出場できない事態が発生した。日本リーグへの影響が大きいため、検討委員会を開催し開催期間を見直すことを検討していく。

地域テニス協会にとって実業団の組織化は大きな財源と思われ、その組織化に相変わらず意欲的でないように見受けられる。東京都テニス協会の実業団委員会を参考にしてPRを続けていきたい。実業団他団体組織の実態調査を続けて行いたいと考えている。

ベテラン本部 (本部長：本井 満)

ベテラン委員会 (委員長：土屋 善二)

ベテラン競技委員会 (委員長：中西 伊知郎)

ベテランシステム委員会（委員長：姫井 義也）

1. 第68回全日本ベテランテニス選手権大会の開催

予 選：平成 18 年 10 月 10 日 男子 35,40,45,70 才以上, 女子 40,45,50 才以上
平成 18 年 10 月 13 日 男子 50,55,60 女子 55,才以上
平成 18 年 10 月 14 日 男子 65 才以上,女子 60 才以上

本 戦：平成 18 年 10 月 10 日～10 月 19 日 8:30～

種 目：男子単 35,40,45,50,55,60,65,70,75 才以上 9 種目
男子複 35,40,45,50,55,60,65,70,75,80 才以上 10 種目
女子単 40,45,50,55,60,65 才以上 6 種目
女子複 40,45,50,55,60,65,70 才以上 7 種目 以上 32 種目

会 場：名古屋市・東山公園テニスセンター

【室内外共砂入り人工芝コート 20 面（内 4 面室内）】

参加資格：①JTA に当該年度（2006 年度）の選手登録を行なったアマチュア・プロフェッショナル登録者

②ベテラン JOP ランキング規程によるベテラン JOP 取得者

参加人数：予選 男子単 7 種目 84 名, 女子単 5 種目 50 名, 計 134 名

本戦 男子単 9 種目 272 名,男子複 10 種目 166 組 332 名,計 19 種目 604 名
女子単 6 種目 136 名,女子複 7 種目 152 組 304 名,計 13 種目 440 名
計 32 種目 総計 1178 名

グレード：A

補 足：第 6 8 回全日本ベテランテニス選手権大会参加者数は昨年度より 39 人増加。
ベテラン JOP 対象大会は、グレード A の本大会を頂点として、B1(1 大会),
B2(2 大会),C1(2 大会),C2(2 大会),D1(5 大会),D2(2 大会),E1(23 大会),
E2(27 大会),FHG (35 大会) および日本スポーツマスターズテニス競技の計 1
0 2 大会がある。

2. 第30回全日本ローンコートベテランテニス選手権大会の運営協力

本 戦：平成 18 年 11 月 11 日～11 月 18 日 11 月 22 日～11 月 30 日 計 16 日間

種 目：男女単複 32 種目

会 場：佐賀市・ウィンブルドン九州テニスクラブ【天然芝コート 15 面】

参加資格：①JTA に当該年度（2006 年度）の選手登録を行なったアマチュア・プロフェッショナル登録者

②ベテラン JOP ランキング規程によるベテラン JOP 取得者

ただし、男子 80 歳以上ダブルスについてはオープン参加とし、ベテラン JOP の規定を除外します。

③シングルス・ダブルス両種目に出場するものは、年齢の異なる種目にはエントリーする事はできません。

参加人数：男子単 9 種目 297 名, 男子複 10 種目 123 組 246 名, 計 19 種目 543 名
女子単 6 種目 139 名, 女子複 7 種目 143 組 286 名, 計 13 種目 425 名
計 32 種目 968 名

グレード：B1

補 足：全日本ベテラン選手権大会に次ぐ大会であり、わが国唯一の天然芝コートの会場である。

参加者数は 17 年度の大会と比較すると約 400 人増加しており、良い傾向にあると思う。

3. 47 都道府県協会主催のベテラン JOP グレード E 大会 FGH 大会の推進と運営協力

事業内容：長寿社会を迎えた今日、47 都道府県協会のベテランテニスの普及と活性化に資するため当委員会が策定提案した「ベテランテニスの発展拡充計画」の一方策とし

でのグレードE大会は、各協会のご協力を得て、本年度はE1大会は23大会、E2大会は27大会計50大会となり、昨年よりE1(オープン)大会が増加するとともに、E2大会からE1大会へ、さらにE1大会よりその上のD大会への指向が強まってきた。グレードA～D大会さらにE大会の拡充策により平成19年3月末の選手登録者も5688名となり、昨年3月末の6217名を下回りはしたが、高齢化社会に伴って今後更なる増加が見込まれている。こうした「発展拡充計画」の実行発展に伴いベテラン本部ベテラン委員会と改組され、ベテランテニスの活動に拍車をかけることになった。当委員会はE大会、FGH大会の整備と拡充を図り19年3月現在では、FGH大会は35大会まで拡大した。

4. 日本スポーツマスターズ・テニス競技の運営と協力

主催者(財)日本体育協会の委託事業として第6回本大会を共同主催し、運営主管の広島県テニス協会の運営に協力した。

開 会 式：平成18年9月15日 16:30～18:50

(前夜祭) 広島県立総合体育館 出席者約900人

期 日：平成18年9月16日～19日

会 場：広島広域公園テニスコート 砂入り人工芝コート

開 始 式：平成18年9月16日 9:00～

開始宣言 土屋善二 大会ディレクター

大会会長挨拶 田中耕二 JTA常務理事(盛田会長代理)

歓迎挨拶 広島市テニス協会会長 安東 善博

〃 佐藤直子 大会シンボルメンバー

競技説明 高橋 由啓 レフェリー(広島県協会理事長)

司 会 津島 則之(中国テニス協会理事長)

種 目：男子単35才以上,複45才以上,女子単複40才以上

参加資格：JTA選手登録者にして、各協会の推薦(推薦方法は任意)による男女単複各1名1組(主管の場合は2名2組)48ドローとする。辞退がでた場合はあらかじめ順位をつけて、複数参加を申し出た協会を対象にベテランJOPランキング順にワイルドカードとして割り当てる。ただし、同一県最大4名4組。

参加人数：男子単48名、複40組(80名)計128名

：女子単43名、複42組(84名)計127名 合計255名

不参加県4県(青森・群馬・京都・山梨)

大会は台風による悪天候にも拘らず、スケジュール通りに進行できたがコンソレーションは行われなかった。

5. 国際ベテラン大会への選手派遣

(1) 国際ベテラン大会への選手派遣と参加(ベテラン委員会)

① I T F主催 年令別世界ベテラン大会 Aグループ大会 <個人戦>

平成18年4月17日～4月22日、南アフリカ・ターバン

男子 40才以上 岩見 亮、薮田 恵士

女子 55才以上 永井 江吏子

<参加数> 男子2名、女子1名 合計3名

② I T F主催 世界選手権 Bグループ大会

<団体戦> 平成18年10月22日～28日、USA・フロリダ

男子 70才以上 辻本明、勝田茂、尾田行令、向井龍彦

女子 60才以上 南井多恵子、渡邊慶子、小川加代子、植木清美

女子 70才以上 金子千春、斉藤恵美子、川島知水、斉藤武子

<個人戦> 平成18年10月29日～11月5日、USA・フロリダ

男子 65才以上 安達 正純

70才以上 辻本明、尾田行令、勝田茂、坂上日出夫、松田武
辻本朝男、須藤寛
女子 60才以上 南井多恵子、渡邊慶子、小川加代子、中村町子
野間富美子
65才以上 柚木邦子、鈴木美知子、湯浅幸、枝川正子

③ I T F 公認アジアベテラン選手権大会（年令別・個人戦）

主 催 : タイテニス協会
期 日 : 平成18年8月
会 場 : タイ・パタヤビーチ
開催国の事情により中止

④ A T F 公認アジア都市対抗国際ベテラン大会（団体戦）

主 催 : A T F 主催
期 日 : 平成18年9月7日～10日
会 場 : 韓国・済州島
種 目 : 男子複50, 55, 60, 65, 70以上各1組
女子複50, 55才以上各1組 計7組による団体戦
参加選手: 土屋善二、片山五郎、深見栄司、川口和秋、上田滋、神谷義紀
山本外喜夫、渡辺聡、木村康彦、山元一夫、伊藤暢英、
松井文子、原百代、福永真由美、柳川幾美、森田玲子

⑤ 第20回北京国際元老网球大会

主 催 : 北京市网球協会 北京市元老网球協会、北京市国際体育交流中心
期 日 : 平成18年10月20日～26日
種 目 : 年令別男女単複 25種目・混合複 2種目
男子 35才以上 前田晋吾
男子 65才以上 河谷久人 秋野修
女子 60才以上 田中俊子 蕪澤寿美子
女子 75才以上 守屋之子

6. 財団法人日本体育協会、日本スポーツマスターズ委員会への出席

① スポーツマスターズ2006大会第1回連絡会議

期 日 : 平成18年4月24日
場 所 : 日体協理事監事室（2F）
出席者 : 中西伊知郎、帆足佳子

② スポーツマスターズ2006大会第1回マスターズ委員会

期 日 : 平成18年6月12日
場 所 : 日体協理事監事室（2F）
出席者 : 中西伊知郎、帆足佳子、斉藤裕斗

③ スポーツマスターズ2006大会組合せ抽選会

期 日 : 平成18年8月9日
場 所 : 岸記念体育館 401号会議室
出席者 : 土屋善二、中西伊知郎、高橋由啓、中島正雄、JTA ベテラン常任委員5名

④ スポーツマスターズ2006大会第2回連絡会議

期 日 : 平成18年8月29日
場 所 : 日体協理事監事室（2F）

⑤ スポーツマスターズ2006大会第3回連絡会議

期 日 : 平成18年11月16日

場 所 : 日体協理事監事室 (2F)

マーケティング本部 (本部長: 青木 弐)

企画委員会 (委員長: 高橋 甫)

事業区分: 1

事業名: **テニスをする場と機会の確保**

事業内容: 普及本部との連携の下、平成 17 年度に続き ITN デモンストレーションのための配布資料を作成した。また、「国際 ITN 査定テニス・データベースの使用ガイド ― プレーヤー編」も作成し、デモンストレーション会場にて配布した (平成 18 年 9 月)。

事業区分: 11

事業名: **観るテニスの普及**

事業内容: 前年に続き、AIG ジャパンオープン、フェドカップ会場にて、国際テニスボランティアを組織し、在京大使館関係者を中心とした VIP 接受を行った。また、大会選手サービス委員会との連盟の下、2007AIG ジャパンオープンにて国際テニスボランティアを組織し、トップシード選手サービスを実施した。

事業区分: 11

事業名: **マーチャンダイジング事業化**

事業内容: 「JTA マーチャンダイジング事業化 ― 平成 17 年度事業計画の評価と今後の方向性」(平成 18 年 3 月常務理事・本部長会議にて報告)に基づき、「ナショナルチーム・ウェアの統一ブランド化を企画案」の策定提案をナショナルチームに行った。また、広報委員会およびナショナルチームとの連携の下、「JTA ポスターカレンダー」を製作し、地域・都道府県協会および日本テニス事業協会会員に配布し、一部を全日本テニス選手権大会会場等にて販売した。

事業区分: 11

事業名: **スポンサー政策の実施**

事業内容: 「スポーツ・マーケティング基本調査とテニスへの応用」(平成 18 年 3 月常務理事・本部長会議にて報告)に基づき、「世界の主要テニス大会および日本のスポーツ競技団体スポンサーに関する調査」を作成し、常務理事・本部長会議にて報告した (平成 18 年 7 月)。また、「JTA スポンサー政策の新たな展開」提案を常務理事・本部長会議に対して行った (平成 18 年 11 月)。

事業区分: 11

事業名: **中長期ビジョンの策定**

事業内容: 「JTA 中長期ビジョン策定の意義」(平成 18 年 3 月常務理事・本部長会議にて報告)に基づき、中長期ビジョン策定のための意見交換・調査を行った。

プロモーション委員会 (委員長: 金森 悟)

1. テニスの普及及び指導

テニスファン、テニス選手、マスコミ・メディア、スポンサーの為のサービス活動、及び、「観るテニス」の普及支援活動。

(1) フェドカップ スイス戦 (4月22日・23日/有明コロシアム): WGII 入れ替え戦

1) インフォメーションカウンター、VIP 対応を含むサービス面での大会運営全面協力

- 2) 観客動員数：6,574名
- (2) **フェドカップ オーストリア戦 (7月15日・16日/有明コロシアム)**
- 1) インフォメーションカウンター、VIP対応を含むサービス面での大会運営全面協力
- 2) 観客動員数：11,445名
- (3) **テニスの日 (9月23日/有明テニスの森公園・コロシアム)**
- 1) 運営への全面協力。運営ボランティア約20名の動員。
- (4) **AIG Japan Open (10月2日～8日/有明テニスの森公園・コロシアム)**
- 1) インフォメーションカウンター、VIP対応を含むサービス面での大会運営全面協力。
- ①大会史上最高の観客のご来場があり、インフォメーション・カウンター初の3ヶ所(西口・東口・お祭広場)体制で実施。 荒天のコート変更等、混乱の中、無事に終了。
- ②運営スタッフ動員は、平日日中の主婦層の確保。 学生・テニスクラブのスタッフなどを研修の場として受け入れを導入。新しい観客対応の高い評価を受けた。
- ③プログラム(約7,400冊)・OPの合計販売金額は、約970万円と過去最高に。
- 2) 観客動員数： 72,396人 / ロジャー・フェデラー初来日効果により過去最高を記録。
- 3) JTA コーナー：書籍販売(約10万円)
- 4) 観客サービスイベント運営 (大会・広報委員会、高木工業様のご支援の下)
- ①ターゲットナイン(645名)、サーブスピードコンテスト(864名)、サービスリターン(フェデラー、ヘンマン、鈴木貴男、杉山愛)、マーキー懇親会(20名/2日)、南アフリカ航空的当てゲーム、JTA抽選会、ユニセフ・チャリティー・オークション(総額120万円/2日)、スタンプラリー(650組参加)、選手サイン会など。
- 5) 委員及びスタッフの支払い日当総額約57万円
- (5) **ニック全日本テニス選手権大会 (11月13日～20日/有明テニスの森公園・コロシアム)**
- 1) インフォメーションカウンター、VIP対応を含むサービス面での大会運営全面協力。
- ①プログラム(383冊)・OP・色紙販売(総額約51万円)
- 2) 観客動員数：25,711人
- 3) JTA コーナー(約11万円) *含むテニス・カレンダー、絵はがき他委員会扱約5万円)、指導者ポイント押印
- 4) 観客サービスイベント運営
- ①ゲスト&チャンピオン(36名) ターゲットナイン(約1,000人)、サーブスピードコンテスト(約690名)、JTA抽選会、サイン会(約440名/3日)、オークション(約21万円)
- ②ニック主催イベント(ゆうゆうテニス、トークショー、テニスの夕べ、親子テニススクール、名門校練習紹介、ジュニアテニススクールなど)
- 5) 委員及びスタッフの支払い日当総額約90万円
- (6) **東レPPO (2007年1月27日から2月4日/東京体育館)**
- 1) JTA コーナー：売上(約82,000円、内他委員会葉書10,000円)、指導者ポイント(約200名)
- 2) 委員およびスタッフの支払い日当総額約15万円(述べ40名)
- (7) **JTA コーナー**
- 上記のJTA 主管大会及び東レPPOにおいて、JTA コーナーを開設及び運営した。JTA 発行の出版物(書籍・DVDなど)の販売を中心に展開。その他、テニス資料室準備委員会の絵はがき、企画委員会のテニス・カレンダーの販売支援も行った。
- (8) **ボランティア・ネットワークの安定化および構築と充実について**
- 現在約百人超の規模のボランティア登録がある。インフォメーションカウンター、JTA コーナー、その他イベント関係などの現場ニーズに合わせた人員手配及び確保に苦勞し

た。 試験的ではあったが、平日昼間の人数確保に主婦層へのアプローチ。学生及びテニススクールの受付担当者の研修派遣を行ってみたところ、たいへんに好評で、ぜひ今後もその機会を与えていただきたいとのリクエストに発展できた。

クラブ JTA 推進委員会 (委員長：橋本 有史)

事業区分：11

事業名：クラブ JTA 会員の増強と会員組織ならびに運営体制の整備

1. クラブ JTA 会員の増強と会員組織、運営体制整備

- (1) 会員増強については平成 18 年 3 月 31 日において 877 名の会員にたいして平成 19 年 3 月 24 日現在で 886 名の会員となり 9 名の増加に留まった。AIG オープンなど各種イベントにおいて新規の会員を獲得したが、縁故にて募集した会員を中心に退会者も多く課題を残す結果となった。
- (2) 各地域協会への還元として合計 240.3 万円 (昨年度は 236 万円) の還元を行った。
 - 1) 有明にて開催されたフェドカップ、AIG オープン、全日本選手権大会においてクラブ JTA コーナーを開設し会員サービスに努めるとともに事前のメルマガによる PR も含め新規会員募集を行った。その結果 4 月のフェドカップでは 6 名、7 月のフェドカップでは 18 名、AIG オープンでは 26 名、全日本では 2 名の申し込みがあった。
 - 2) クラブ JTA の PR のための広告およびポスターを作製した。これらは今後のクラブ JTA の PR 活動に広く利用する予定である。

2. クラブ JTA 理解のためのジュニアレポートの作成

- (1) クラブ JTA 資金を利用するジュニア育成活動の PR のため、ジュニア育成活動についてまとめた「ジュニアレポート 2006」を作成した。

3. 委員会の開催

- (1) 地域協会推薦の委員も含めた全国会議
9 月 10 日に実施し、平成 17 年度の報告およびクラブ JTA の推進方法の検討、クラブ JTA の PR、会員募集の依頼を行った。
- (2) 在京委員による委員会開催
有明の各種イベント対応、ジュニアレポート作成、全国会議、会員募集活動等の検討のため 4 月 20 日、6 月 13 日、9 月 10 日、1 月 18 日に在京委員による委員会を開催。

ジャパンオープントーナメント本部 (本部長：有沢 三治)

ジャパンオープンイベント本部 (本部長：矢澤 猛)

ジャパンオープン委員会 (委員長：有沢 三治)

事業区分：3

事業名：2006 AIG ジャパンオープンの開催

事業内容：2006 ジャパンオープンの開催について

今年の大会は前半雨にたたられ、試合を消化する為に夜遅くまでの運営で苦労しましたが、世界 No. 1 のロジャー・フェデラー選手の初参加で連日多いに盛り上がりました。この最強の選手を一目見るために多くの観客が来場され、特に土曜日は満席でお客様

が入場出来ない不手際もありましたが、入場者は大会史上最高の72,386人を記録する事が出来まして盛会裡に終了出来ました。

試合は男子シングルスでは R・フェデラー（スイス）選手が王者の貫禄を示し、第10シードの T・ヘンマン選手をストレートで破り、初来日を優勝で飾りました。ダブルスは第2シードの A・フィッシャー、T・フィリップス組（オーストラリア、アメリカ）がノーシードながら決勝に進出した P・ゴールドスタイン、J・トーマス（アメリカ）組を破り初優勝。

女子シングルスは今シーズン好調の世界22位で、第1シードの M・バルトリ（フランス）に、ツアー初の決勝に進出した中村藍子が惜しくもフルセットの末敗れ優勝を逃しました。ダブルスは V・キング、J・コスタニッチ（フィンランド）組が CHAN、CHUANG（台湾）組をフルセットで破り初優勝。

1. 観客サービス

- (1) 会場の広場については、有明側で広場全体を平坦にして芝を張ったりしてくれたので足場も大分良くなりました。一方マーキーを屋根下から広場に移した事で、お祭りのにも雰囲気盛り上がりましたが、矢張り雨が降ると足場は泥だらけの状態、まだまだ広場の雨対策の改善が必要と思われます。
- (2) 飲食関係については、会場にはお客様用の飲食の設備が全くないので、大会の度に臨時的売店、屋台等に対応しておりますが、中々満足いただける飲食の提供は出来ておりませんので、今後も工夫し種類、内容、値段などの改善を計って行きたいと考えます。観客を対象としたアンケートでもここでの改善の要求が一番多かったでした。
- (3) インフォメーション・カウンターは、今大会の記録的な入場者、荒天によるスケジュールの変更などが多く大変でしたが、観客に対しボランティアの方々のお力添えで献身的な対応、特に今年からは3ヶ所（西口、東口、お祭り広場）でのお客様対応の観客サービスは素晴らしく、大変好評を博しておりました。

2. スポンサーサービス

- (1) 今回実力 NO1 のフェデラー選手の初参加により、連日多くの観客で賑わい、期間を通して大会史上最高の72,386人の動員が出来ました、またマスコミによる露出効果も多大で大会価値を高めた。今後共持続出来ますよう努力して行きたいと存じます。
- (2) 男子シングルスで準々決勝に勝ち進んだ鈴木貴男が第1シードのフェデラーにフルセット、ファイナルタイブレークで後一步まで追い込む素晴らしい活躍で観衆を沸かせました。
女子では中村藍子がツアー初の決勝に進出するなど、日本選手の活躍で大いに大会を盛り上げてくれました。
- (3) 今回 NHK の協力いただき、ガオラで大会前半の試合について TV 放送が実現出来た事は、「AIG OPEN タイトル」の露出拡大に寄与すると共に、多くのテニスファンにも試合を楽しめる機会が出来たと存じます。
- (4) ライブスコアサイトではフェデラー効果もあったかと思いますが、サイトへのアクセスが集中しオーバーロード状態になる程増加し、ページビューは期間を通して 25,061,453 に達しました。
このように TV、各新聞メディア、インターネットウェブサイト上での露出広告効果の拡大はスポンサーも多に満足いただけた事と思います。

3. 選手サービス

選手へのサービスの向上のために、コロシアムのプレイヤーズルーム内の ATP,WTA のオフィスを外に設置し、ルーム内を広く使い易くして、選手に寛げ

る様に改善しましたが、まだ々選手には満足いただけるようなルームにはなっていません。何分にも有明の施設も老朽化して色々と手を入れなくてはなりません、簡単には出来ず、海外の一流大会の施設とは格段の差はあります。それでも限られた施設を効率よく使用せざるを得ないのが現状と云えます。

4. 総括

男子のツアーイベントは本大会が国内の唯一であり、注目度は高まっています。良い大会を運営してテニスファンに楽しめる場を提供するのが、協会の役割と云えます。主役は選手と観客であり、我々は裏方となって今後ともサポートしたいと考えております。

ナショナルチーム（ゼネラルマネージャー：小浦武志）

事業区分：5

事業名：ナショナル代表チームの遠征

事業内容：デビスカップへの参加

- ①デビスカップ 2006 アジア／オセアニアゾーン・グループ I 2回戦 タイ 対 日本
期日：4月7日～9日 会場：バンコク ラマガーデンスポーツコンプレックス
監督：竹内 映二 スーパーバイザー：ボブ・ブレット コーチ：増田 健太郎
ドクター：奥平 修三・赤池 敦 トレーナー：山下 且義
ストリンガー：富岡 信人 マネージャー：田島 孝彦
選手：添田 豪／岩渕 聡／松井 俊英／本村 剛一
結果：2勝3敗で敗退、来年度のアジア／オセアニアゾーン・グループ残留が決定
- ②デビスカップ 2007 アジア／オセアニアゾーン・グループ I 1回戦 中国 対 日本
期日：2月9日～11日 会場：北京 北京国際テニスセンター
監督：竹内 映二 コーチ：増田 健太郎
ドクター：奥平 修三 トレーナー：中尾 公一
ストリンガー：富岡 信人 マネージャー：田島 孝彦
選手：添田 豪／岩渕 聡／鈴木 貴男／杉田 祐一
結果：4勝1敗で勝利、アジア／オセアニアゾーン・グループ I 2回戦進出が決定

事業内容：フェドカップへの参加

- ①フェドカップ 2006 ワールドグループ II 1回戦 日本 対 スイス
期日：4月22日・23日 会場：東京 有明コロシアム
監督：植田 実 コーチ：駒田 政史
ドクター：金森 章浩 トレーナー：村木 良博／茂木 奈津子
ストリンガー：富岡 信人 マネージャー：田島 孝彦
選手：杉山 愛／中村 藍子／森上 亜希子／浅越 しのぶ
結果：4勝1敗で勝利、ワールドグループ プレーオフ進出
- ②フェドカップ 2006 ワールドグループ プレーオフ 日本 対 オーストリア
期日：7月15日・16日 会場：東京 有明コロシアム
監督：植田 実 コーチ：駒田 政史
ドクター：金森 章浩 トレーナー：村木 良博／茂木 奈津子
ストリンガー：富岡 信人 マネージャー：田島 孝彦
選手：杉山 愛／森上 亜希子／中村 藍子／浅越 しのぶ
結果：5勝0敗で勝利、来年度のワールドグループ I 進出が決定

事業内容：第15回アジア大会（2006／ドーハ）への参加

日時：12月4日～14日

監督：植田 実 トレーナー：村木 良博 コーチ：増田健太郎／駒田 政史

選手：添田 豪／岩渕 聡／松井 俊英／鈴木 貴男

中村 藍子／森上亜希子／不田 涼子／米村 知子

結果：男子団体…銀メダル 女子団体…銅メダル

男子シングルス 添田…銅メダル 松井…3回戦

女子シングルス 中村…銅メダル 森上…1回戦（棄権）

男子ダブルス 岩渕・鈴木…ベスト8 添田・松井…1回戦

女子ダブルス 不田・米村…銅メダル 森上・中村…ベスト8

混合ダブルス 岩渕・森上…銀メダル 松井・米村…2回戦

事業内容：アジアンホップマンカップ遠征

日時：11月 日～28日

コーチ：植田 実

選手：杉田 祐一／米村 知子

結果：ラウンドロビン ●日本 1-2 ○中国

●日本 0-2 ○インド

※日本はラウンドロビン敗退、ホップマンカップ本大会の出場はならず。

事業内容：ナショナルジュニア海外遠征

<団体戦>

①ジュニアデビスカップ アジア／オセアニア予選

日時：5月2日～7日 会場：マレーシア・サラワク・クチン

監督：村上 武資 選手：守屋 宏紀／ロンギ 正幸／松尾 友貴

結果：ラウンドロビン ○日本 3-0 ●ニュージーランド

○日本 3-0 ●バングラデシュ

準々決勝 ○日本 2-0 ●チャイニーズ台北

準決勝 ●日本 0-2 ○タイ

3位決定戦 ○日本 2-1 ●韓国

※20か国中3位で上位3か国に与えられる決勝大会出場権を獲得。

②ジュニアフェドカップ アジア／オセアニア予選

日時：5月9日～14日 会場：タイ・バンコク

監督：岩本 功 選手：秋田 史帆／奈良 くるみ／田中 優季

結果：ラウンドロビン ○日本 3-0 ●パキスタン

○日本 3-0 ●スリランカ

○日本 2-1 ●韓国

準々決勝 ○日本 2-1 ●インドネシア

準決勝 ●日本 1-2 ○オーストラリア

3位決定戦 ○日本 2-0 ●香港

※16か国中3位で上位4か国に与えられる決勝大会出場権を獲得。

③ワールドジュニア アジア／オセアニア予選 遠征

日時：5月12日～21日 会場：インドネシア・ジャカルタ

(男子)

監督：谷澤 英彦

選手：内山 靖崇・斎藤 秀・喜多 元明

結果：ラウンドロビン ○日本 3-0 ●シンガポール
 ○日本 3-0 ●香港
 ○日本 3-0 ●フィリピン
 準々決勝 ○日本 2-1 ●韓国
 準決勝 ●日本 0-2 ○ニュージーランド
 3位決定戦 ○日本 2-1 ●インド

※16 か国中 3 位で上位 4 か国に与えられる決勝大会出場権を獲得。
 (女子)

監督：山本 育史

選手：石津 幸恵・美濃越 舞・牟田口 恵美

結果：ラウンドロビン ○日本 3-0 ●マレーシア
 ●日本 1-2 ○ニュージーランド
 ●日本 1-2 ○インドネシア

9～12 位決定戦 ○日本 2-1 ●フィリピン

9～10 位決定戦 ○日本 2-1 ●パシフィック・オセアニア

※15 か国中 9 位でアジア／オセアニア予選で敗退。

④ジュニアデビスカップ・ジュニアフェドカップ決勝大会遠征

日 時：9 月 22 日～10 月 3 日

(ジュニアデビスカップ)

監 督：村上 武資

選 手：守屋 宏紀／ロンギ 正幸／松尾 友貴

結 果：ラウンドロビン ○ 3-0 アメリカ
 ● 1-2 イタリア
 ● 0-3 ブラジル

9～12 位決定戦 ○ 2-0 エジプト

9・10 位決定戦 ○ 2-1 ドイツ

※16 か国中 9 位。

(ジュニアフェドカップ)

監 督：岩本 功

選 手：奈良 くるみ／土居 美咲／田中 優季

結 果：ラウンドロビン ● 0-3 アメリカ
 ● 1-2 ベラルーシ
 ● 0-3 スペイン

13～16 位決定戦 ● 1-2 アルゼンチン

15・16 位決定戦 ○ 2-1 香港

※16 か国中 15 位。

<個人戦>

①全仏オープンジュニア遠征

日時：5 月 17 日～6 月 11 日

コーチ：村上 武資／岩本 功

選手：会田 翔／伊藤 絵美子／山本 愛／井上 明里／越野 由梨奈

結果：47th Trofeo Bonfiglio “Campionati Internazionali D’ Italia” 2006 (イタリア GA)

会田…シングルス 1R、ダブルス 1R (w／錦織)

伊藤…シングルス 1R、ダブルス 1R (w／山本)

山本…シングルス 2R、ダブルス 1R (w/伊藤)
井上…シングルス 1R、ダブルスベスト 8 (w/越野)
越野…シングルス 2R、ダブルスベスト 8 (w/井上)

42nd Astrid Bowl Charleroi, Belgian International Junior Championships 2006

(ベルギーG1)

会田…シングルス 2R、ダブルス 2R (w/HAMUI (USA))
伊藤…シングルス 1R
山本…シングルス 2R
井上…シングルス 1R
越野…シングルス予選 3R

Roland Garros 2006 (フランス GA)

会田…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/LEMKE (AUS))
伊藤…シングルス予選 2R、ダブルス 1R (w/山本)
山本…シングルス予選 1R、ダブルス 1R (w/伊藤)
井上…シングルス予選 1R、ダブルスベスト 8 (w/越野)
越野…シングルス予選 1R、ダブルスベスト 8 (w/井上)

②トヨタジュニア遠征

日 時：6月15日～7月24日

コーチ：岩本 功 / 有本 尚紀

選 手：守屋 宏紀/綿貫 裕介/関口 周一/福田 健司

土居 美咲/伊従 智子/末次真由子/田島 杏奈

結 果：Thamrin Cup International Junior Championships (インドネシア G4)

綿貫…シングルス準優勝、ダブルスベスト 8 (w/関口)
関口…シングルスベスト 4、ダブルスベスト 8 (w/綿貫)
土居…シングルスベスト 4、ダブルス優勝 (w/伊従)
伊従…シングルスベスト 8、ダブルス優勝 (w/土居)

Pangdam Siliwangi Cup - International Junior Championships

(インドネシア G4)

綿貫…シングルスベスト 8、ダブルス 1回戦 (w/CHUNG (KOR))
関口…シングルス 1回戦、ダブルス 1回戦 (w/福田)
福田…シングルス 3回戦、ダブルス 1回戦 (w/関口)
土居…シングルスベスト 4、ダブルス準優勝 (w/伊従)
伊従…シングルス予選 2回戦、ダブルス準優勝 (w/土居)
田島…シングルスベスト 8
末次…シングルス予選 2回戦

ITF Yonex Junior Championships (タイ G4)

守屋…シングルス優勝、ダブルスベスト 8 (w/福田)
綿貫…シングルス 3回戦、ダブルスベスト 8 (w/関口)
関口…シングルス 2回戦、ダブルスベスト 8 (w/綿貫)
福田…シングルス予選 2回戦、ダブルス 1回戦 (w/守屋)
土居…シングルス 2回戦、ダブルスベスト 8 (w/伊従)
伊従…シングルス 2回戦、ダブルスベスト 8 (w/土居)
田島…シングルス 1回戦、ダブルス 2回戦 (w/早瀬)
末次…シングルス予選 2回戦

Darwin International (オーストラリア G3)

守屋…シングルス 3回戦、ダブルスベスト 8 (w/松尾)

Northern Territory International (オーストラリア G3)
守屋…シングルスベスト4、ダブルスベスト4 (w/松尾)

③ウィンブルドンジュニア遠征

日 時 : 6月19日~7月9日

コーチ : 村上 武資

選 手 : 会田 翔/伊藤 絵美子/山本 愛/井上 明里/越野 由梨奈

結 果 : LTA International Junior Championships - Roehampton (イギリス G1)

会田…シングルス 2R、ダブルス 1R (w/喜多)

伊藤…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/山本)

山本…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/伊藤)

井上…シングルス 1R、ダブルス 2R (w/越野)

越野…シングルス 1R、ダブルス 2R (w/井上)

The Junior Championships, Wimbledon (イギリス GA)

会田…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/CHERNOV(RUS))

伊藤…シングルス予選 2R

山本…シングルス予選 2R

井上…シングルス予選 1R

越野…シングルス予選 1R

④U14 ヨーロッパ遠征

日 時 : 7月5日~8月13日 (※女子は7月31日まで)

コーチ : 谷澤 英彦/櫻井 準人/濱浦 貴光/石島 川奈

選 手 : 喜多 元明/内山 靖崇/斉藤 秀

石津 幸恵/美濃越 舞/牟田口恵美

結 果 : BNP Paribas Cup - Stade Francais - Paris (フランス)

喜 多…シングルス 2回戦、ダブルス 1回戦 (w/COLELLIA(ITA))

内 山…シングルス 4回戦、ダブルスベスト8 (w/斉藤)

斉 藤…シングルス 2回戦・コンソレ 1回戦、ダブルスベスト8 (w/内山)

石 津…シングルス 3回戦、ダブルス 1回戦 (w/美濃越)

美濃越…シングルス 1回戦・コンソレ 1回戦、ダブルス 1回戦 (w/石津)

牟田口…シングルス 1回戦・コンソレ 1回戦、ダブルス 1回戦 (w/CARTWRIGHT(BHS))

Windmill Cup Carl Gantois (オランダ)

喜 多…シングルス 2回戦・コンソレ 1回戦、ダブルス 3回戦 (w/MAZZIOTI(ARG))

内 山…シングルス 2回戦・コンソレ 3回戦、ダブルス 1回戦 (w/斉藤)

斉 藤…シングルス 2回戦・コンソレベスト8、ダブルス 1回戦 (w/内山)

石 津…シングルス 2回戦、ダブルスベスト8 (w/美濃越)

美濃越…シングルス 1回戦・コンソレベスト4、ダブルスベスト8 (w/石津)

牟田口…シングルス 1回戦・コンソレ 1回戦、ダブルス 1回戦 (w/DEPENAU(GER))

: Le 13/14 des Hauts-de-Seine (フランス)

喜 多…シングルス 2回戦、2回戦コンソレ 2回戦、ダブルス 1回戦 (w/
FERRAEZ(MEX))

内 山…シングルスベスト4、ダブルス優勝 (w/斉藤)

斉 藤…シングルス 3回戦、ダブルス優勝 (w/内山)

石 津…シングルスベスト8、ダブルスベスト4 (w/牟田口)

美濃越…シングルス 1回戦・コンソレ優勝、ダブルス 1回戦 (w/ROBSON(GBR))

牟田口…シングルス 2回戦・2回戦コンソレ 1回戦、ダブルスベスト4

(w/石津)

29. Rheinenergie Tennis Cup (ドイツ) …男子のみ

喜 多…シングルス 4 回戦、ダブルス 2 回戦 (w/FERRAEZ(MEX))

内 山…シングルスベスト 4、ダブルス優勝 (w/斉藤)

斉 藤…シングルス 2 回戦・コンソレベスト 8、ダブルス優勝 (w/内山)

World Junior Tennis Finals 2006 (チェコ) …男子のみ

結果：ラウンドロビン ○日本 2-1 ●ドイツ (第 3 シード)

○日本 2-1 ●ブラジル (第 5 シード)

○日本 3-0 ●モロッコ

準決勝 ○日本 2-1 ●ニュージーランド

決勝 ●日本 1-2 ○イタリア (第 4 シード)

※16 か国中準優勝、準優勝は 2002 年以来、2 度目。

⑤全米オープンジュニア遠征

日 時：8 月 25 日～9 月 9 日

コーチ：村上 武資

選 手：守屋 宏紀/伊藤絵美子/山本 愛

結 果：Canadian Open Junior Championships (カナダ G1)

守屋…シングルス 2 回戦、ダブルス 1 回戦 (w/GARFORTH-BLES(CAN))

伊藤…シングルス 1 回戦、ダブルス 2 回戦 (w/LI(USA))

山本…シングルス 1 回戦

US Open Junior Tennis Championships (アメリカ GA)

守屋…シングルス予選 2 回戦、ダブルス 1 回戦 (w/POLANSKY(CAN))

伊藤…シングルス予選 2 回戦、ダブルス 2 回戦 (w/山本)

山本…シングルス予選 2 回戦、ダブルス 2 回戦 (w/伊藤)

⑥U18 タイ遠征

日 時：10 月 19 日～11 月 5 日

コーチ：村上 武資/舌 隆史

選 手：守屋 宏紀/ロンギ 正幸/松尾 友貴/片山 翔

伊藤 絵美子

結 果：UBC-true Thailand Open (タイ G2)

ロンギ…シングルスベスト 4、ダブルス 1R (w/松尾)

松 尾…シングルス 2R、ダブルス 1R (w/ロンギ)

伊 藤…シングルスベスト 8、ダブルスベスト 4 (w/秋田)

Asia/Oceania Closed Championships 2006 (タイ GB1)

守 屋…シングルスベスト 8、ダブルス 2R (w/松尾)

ロンギ…シングルス 3R、ダブルス準優勝 (w/片山)

松 尾…シングルス 1R、ダブルス 2R (w/守屋)

片 山…シングルス準優勝、ダブルス準優勝 (w/ロンギ)

伊 藤…シングルスベスト 8

⑦全豪オープンジュニア遠征

日 時：2007 年 1 月 10 日～27 日

コーチ：村上 武資

選 手：守屋 宏紀/ロンギ正幸/伊藤絵美子/秋田 史帆/山本 愛

結 果：Optus Nottingham International (オーストラリア G1、1/14～20)

守 屋…シングルス 2R、ダブルス 1R (w/OH(KOR))

ロンギ…シングルス予選 1R、ダブルス 1R (w/喜多)

伊 藤…シングルス 3R、ダブルス 1R (w/山本)

秋 田…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/HAN(KOR))

山 本…シングルス 2R、ダブルス 1R (w/伊藤)

Australian Open Junior Championships (オーストラリア GA、1/21~27)

守 屋…シングルス 3R

ロンギ…シングルス予選 1R、ダブルス 2R (w/OH(KOR))

伊 藤…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/山本)

秋 田…シングルス 2R、ダブルス 1R (w/HAN(KOR))

山 本…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/伊藤)

⑧NISSHINBO 南米ジュニアサーキット派遣

日 時：2007年1月23日~3月3日(男子)、3月10日(女子)

コーチ：井本 善友/有本 尚紀

選 手：片山 翔 /松尾 友貴/奈良くるみ/土居 美咲

結 果：Torneo Internacional Inka Bowl (ペルーG2、1/29~2/4)

片山…シングルスベスト4、ダブルス準優勝 (w/松尾)

松尾…シングルス 2R、ダブルス準優勝 (w/片山)

奈良…シングルス 1R、ダブルスベスト4 (w/土居)

土居…シングルス 2R、ダブルスベスト4 (w/奈良)

Condor de Plata Tournament (ボリビア G2、2/5~11)

片山…シングルス 2R、ダブルス 2R (w/松尾)

松尾…シングルス 2R、ダブルス 2R (w/片山)

奈良…シングルス優勝、ダブルス優勝 (w/土居)

土居…シングルス 1R、ダブルス優勝 (w/奈良)

Copa Milo - IND 2007 (チリ G2、2/12~18)

片山…シングルス 1R

松尾…シングルス 1R、ダブルス 2R (w/COHEN (ARG))

土居…シングルス 2R

28th Argentina Cup (アルゼンチン G2、2/19~24)

松尾…シングルス 2R、ダブルス 2R (w/TAVCAR (SLO))

奈良…シングルス準優勝、ダブルス準優勝 (w/土居)

土居…シングルス 3R、ダブルス準優勝 (w/奈良)

Uruguay Bowl (ウルグアイ G2、2/26~3/3)

松尾…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/VUCIC (SRB))

奈良…シングルス準優勝、ダブルス準優勝 (w/土居)

土居…シングルス 2R、ダブルス準優勝 (w/奈良)

27th Asuncion Bowl (パラグアイ G1、3/5~10)

奈良…シングルスベスト8、ダブルス優勝 (w/土居)

土居…シングルス 3R、ダブルス優勝 (w/奈良)

(女子のみ) 27th Asuncion Bowl (パラグアイ G1、3/5~10)

⑨U16 オセアニア遠征

日 時：2007年1月31日~2月24日

コーチ：岩本 功

選 手：江原 弘泰/関口 周一/山外 涼月/井上 雅

結 果：Sunsmart 18 and Under Canterbury Championships (ニュージーランド G4、2/5~

10)

江原…シングルス 2R、ダブルス 2R (w/関口)

関口…シングルス 2R、ダブルス 2R (w/江原)

山外…シングルス準優勝、ダブルス優勝 (w/井上)
 井上…シングルスベスト 8、ダブルス優勝 (w/山外)
 Wellington 18 & U Summer Championships (ニュージーランド G4、2/12～17)
 江原…シングルス 3R、ダブルスベスト 8 (w/関口)
 関口…シングルスベスト 4、ダブルスベスト 8 (w/江原)
 山外…シングルスベスト 4、ダブルス優勝 (w/井上)
 井上…シングルス優勝、ダブルス優勝 (w/山外)
 IC Challenge (ニュージーランド団体戦、2/20～22)
 日本・オーストラリア・ニュージーランドの3か国中1位

事業内容：ナショナルチーム強化合宿・キャンプ及び選考会

・デビスカップ強化合宿

①デビスカップ アジア/オセアニアゾーン・グループ I 2回戦 タイ 対 日本
 第1次強化合宿 (期日：3月26日～4月1日、会場：京都 東山テニスクラブ)
 監督：竹内 映二 コーチ：増田 健太郎
 選手：添田 豪/岩渕 聡/松井 俊英/本村 剛一
 体力強化を中心に実施

第2次強化合宿 (期日：4月2日～6日 会場：タイ ラマガーデンコンプレックス)
 監督：竹内 映二 コーチ：ボブ・ブレット/増田 健太郎
 選手：添田 豪/岩渕 聡/松井 俊英/本村 剛一

②デビスカップ アジア/オセアニアゾーン・グループ I 1回戦 中国 対 日本
 第1次強化合宿 (期日：1月28日～2月2日、会場：大阪 江坂テニスセンター)
 監督：竹内 映二 コーチ：増田 健太郎
 選手：添田 豪/岩渕 聡/鈴木 貴男/杉田 祐一/井藤 祐一
 岩見 亮/会田 翔/近藤 大生/
 関口 周一/鈴木 昂

第2次強化合宿 (期日：2月4日～8日、会場：北京 北京国際テニスセンター)
 監督：竹内 映二 コーチ：増田 健太郎
 選手：添田 豪/岩渕 聡/鈴木 貴男/杉田 祐一

・フェドカップ強化合宿

① フェドカップ ワールドグループ II 1回戦 日本 対 スイス
 強化合宿 (期日：4月16日～22日、会場：東京 有明コロシアム)
 コーチ：植田 実/駒田政史
 スタッフ：村木良博/茂木奈津子/金森章浩/富岡信人/田島孝彦
 選手：杉山 愛/中村 藍子/森上 亜希子/浅越 しのぶ

②フェドカップ ワールドグループ プレーオフ 日本 対 オーストリア
 強化合宿 (期日：7月10日～7月14日 会場：有明コロシアム)
 コーチ：植田 実/駒田政史
 スタッフ：村木良博/茂木奈津子/金森章浩/富岡信人/田島孝彦
 選手：杉山 愛/森上 亜希子/中村 藍子/浅越 しのぶ

・修造チャレンジ トップジュニアキャンプ

日 時：4月4日～6日 会場：名古屋市・東山公園テニスセンター
 コーチ：松岡 修造/櫻井 準人/岩本 功 /佐藤 雅幸

選手：守屋 宏紀/廣田 耕作/片谷 祥吾/江原 弘泰/遠藤 豪 /喜多 元明/斉藤 秀/本藤 優 /綿貫 敬介/奥田 悠 /村松 勇紀/斉藤 貴史/松浦 優太

- ・ワールドジュニア アジア・オセアニア予選 選考練習会
 日時：2006年4月6日～8日 会場：名古屋市・東山公園テニスセンター
 コーチ：谷澤 英彦／山本 育史
 選手：男子…喜多 元明／和久井健太／金城 充 / 田中 宏和／川崎 光
 女子…藤岡 莉子／岡本 佳奈／美濃越 舞／加藤 由花／牟田口恵美／
 長谷川菜美
- ・ユニバーシアード女子チーム合宿
 日時：4月28日～5月2日 会場：岐阜メモリアルセンター
- ・ユニバーシアード男子チーム合宿
 日時：5月14日～18日 会場：グローバルアリーナ
- ・ボブ・ブレット デ杯ミニキャンプ
 日時：5月14日～20日 会場：グローバルアリーナ
- ・ユニバーシアード選考会
 - ・ユニバーシアード男子最終選考会
 日時：2月22日～25日
 会場：慶應義塾大学テニスコート
 選手：松永 浩気／佐藤 文平／成瀬 廣亮／吉備 雄也／小山 慶大／芝田 雅司会田
 翔 / 喜多 文明
 監督：森 稔詞 コーチ：坂井 利彰 トレーナー：中尾 公一
 結果：佐藤文平と会田翔が代表選手に決定。
- ・ユニバーシアード女子選考会
 監督：細木 祐子 コーチ：道上 静香 学連：小野塚弓乃（全日本学連強化担当）
 一次選考会
 日時：3月3日～4日
 会場：江坂テニスセンター
 選手：角田 良美／大西 香 / 梶尾 奈央／的場 裕加／田代 美智／土屋 奈夏
 古賀 愛美／川崎 光美／中西由希子
 結果：大西香と田代美智が最終選考会の出場権を獲得。
 最終選考会
 日時：3月8日～11日
 会場：江坂テニスセンター
 選手：宮村 美紀／伊藤 和沙／井上 明里／宮崎 優実／大西 香 / 青山 修子
 加藤夕香子／的場 裕加／福井 恵実／樋口 由佳
 結果：大西香が代表選手に決定。
- ・ワールドジュニア アジア・オセアニア予選 男子候補選手合同強化合宿
 日時：2月16日～18日
 コーチ：櫻井 準人
 選手：喜多 元明／本藤 優 / 綿貫 敬介／蜂谷 翔希／中川 航 / 松崎勇太郎
 ※アジア・オセアニア予選選手は、喜多／綿貫／中川に決定
- ・ワールドジュニア アジア・オセアニア予選 日本代表選考練習会（女子）
 日時：2月16日～18日
 コーチ：右近 憲三／村上 武資
 選手：前田 貴優／山本みどり／岡田 佳奈／小和瀬望帆／尾崎 里紗
 ※アジア・オセアニア予選選手は、大前／小和瀬／牟田口恵美に決定

事業内容：競技力向上を目的としたコーチ及びトレーナーの育成

国内競技力の向上とコーチ及びトレーナー育成への長期計画。国際舞台の現場に新しい人材を起用し、指導者の育成をすることにより、長期的な育成基盤を作っていく。将来は一貫指導体制推進委員会と共同で、S級ライセンス制度につなげていく。

S級エリートコーチライセンス認定講習会

日 時：12月15日～22日

会 場：吉田記念テニス研修センター

内 容：コミュニケーションとプレゼンテーション（三森ゆりか）

テクニカル全般／戦略的思考（ジョンボーン）

トレーニング・メンタル全般のトレーニング（アンクィーン）

・JOC強化指定選手・強化スタッフ（ナショナルチーム関連）

強化指定選手（男子）：添田 豪 / 鈴木 貴男 / 本村 剛一 / 岩渕 聡 / 松井 俊英
岩見 亮 / 寺地 貴弘 / 会田 翔 / 杉田 祐一

強化指定選手（女子）：杉山 愛 / 浅越しのぶ / 森上亜希子 / 中村 藍子 / 藤原 里華
小畑 沙織 / 森田あゆみ / 不田 涼子

強化スタッフ：小浦 武志 / 福井 烈 / 右近 憲三 / 竹内 映二 / 植田 実
澁谷 隆良 / 村上 武資 / 岩本 功 / 谷澤 英彦 / 山本 育史
Bob Brett / 増田健太郎 / 駒田 政史 / 森 稔詞 / 宮地弘太郎
坂井 利彰 / 細木 祐子 / 道上 静香 / 井本 善友 / 舌 隆史
有本 尚紀 / 田島 孝彦 / 櫻井 準人 / 濱浦 貴光 / 松岡 修造
田村 伸也 / 丸山 薫 / 横松 尚志 / 田島 孝彦

強化企画本部（本部長：坂井 利郎）

強化システム委員会（委員長：藤井 道雄）

事業区分：5

事業名：オーストラリアオープン ボールキッズトライアルの実施

事業内容：10月7日（土）・8日（日）にAIGオープン開催中の有明テニスの森公園にて、男女39名から男女2名ずつを選考。男女2名ずつと引率者2名（途中交代）を2007年1月5日（土）～1月19日（土）に全豪オープンのボールキッズに派遣した。

事業区分：5

事業名：ATFU-14の日本での大会の開催とその大会期間中のU-14トレーニングキャンプの実施

事業内容：7月3日（月）～8日（土）にパパステニスクラブ須玉（山梨県）にてATFアジアU14シリーズトーナメントを実施、運営に協力。また、6月26日（月）～30日（金）にトレーニングキャンプ及びコーチワークショップを実施、ジュニア選手140名、指導者20名が参加。

事業区分：11

事業名：ジュニアコーチの啓蒙、教育活動の推進

事業内容：前述したとおり、6月26日（月）～30日（金）にトレーニングキャンプ及びコーチワークショップを実施、指導者20名が参加。

事業区分：6

事業名：ジュニア選手に関わる各種規程の改善と設定

事業内容：全国ジュニアランキングを作成、国内開催の国際大会で ITF ジュニアランキングを持たない選手の順位付け等に活用した。また、既存のジュニア大会の見直しを検討する「ジュニア大会のあり方検討プロジェクト」会議を8月14日（月）に韃靼テニスセンターで実施した。

事業区分：11

事業名：会議の開催

事業内容：地域代表委員を集めた全国会議を、4月14日（金）東山公園テニスセンター（名古屋市）、11月13日（月）有明コロシアムの年2回開催した。

事業区分：10

事業名：ナショナルトレーニングセンター設立に向けての準備体制の確立

事業内容：JOC、文部科学省、JISS 他と NTC 中核拠点施設の詳細について数度の折衝を行なった。また、コートサーフェス視察のため、神戸ローン TC・韃靼テニスセンター・西武ドームならびに各所インドアテニスコートの視察を行った。

スポーツ科学委員会（委員長：梅林 薫）

1. JTA ナショナル強化指定選手のスポーツ科学的サポート

JTA ナショナル強化指定選手においては、JISS(国立スポーツ科学センター)および大阪府中央体育館健康体力相談室において、体力の分析そしてトレーニング指導を行った。また、デ杯、フェド杯での強化合宿（事前合宿）において、コンディショニング指導および体力トレーニング指導を行った。

2. 地域ジュニア選手に対してのトレーニング・測定合宿の開催

9地域で開催されたジュニア合宿について、体力トレーニング指導を行った。その指導としては、ウォーミングアップの方法、また、体力トレーニング（試合期、トレーニング期）の実践指導も行い、選手に対していろいろな情報を提供した。また、地域のコーチとのミーティングも行い、それぞれディスカッションも活発に行った。

3. デ杯、フェド杯の戦術・ゲーム分析

2006年、4月7日、8日、9日にバンコク（タイ）で行われたデ杯（対タイ戦）、4月22日、23日に有明コロシアムで開催されたフェド杯（対スイス戦）、7月15日、16日に有明コロシアムで開催されたフェド杯（対オーストリア戦）の戦術・ゲーム分析を行った。戦術担当委員により、VTR カメラを用いて、試合撮影を行い、監督・コーチに対して、得られた映像や分析データの即時フィードバックによる科学的サポートを行った。できる限り、分析データが現場に活かされるように、努力した。今後は、スカウティングをより充実したものにしていきたいとの分析班の報告であった。また、AIG オープン、全日本ジュニアテニス選手権大会、ワールドスーパージュニアテニス選手権大会のについても、ゲーム分析を行った。フェド杯、デ杯、AIG オープンについては、JISS のトータルサポート事業の一環でもある。

4. 2007JTA ナショナルコーチング・ワークショップの開催

2007年1月6日、7日の2日間、青山学院大学青山キャンパス「ガウチャー・メモリアルホール」および「体育館」において、2007JTA ナショナルコーチング・ワークショップを行った。今回は、主催が、JTA、全国高等学校体育連盟テニス部・全国中学校テニス連盟・全日本学生テニス連盟であり（主管は、スポーツ科学委員会、指導者育成委員会）、共同事業としてのワークショップであった。「チーム JAPAN の確立に向けて」というテーマであり、日本国内全ての

指導者が共通した目標をもち、一丸となって日本のテニス界を発展させようという理念のもと、112名の参加者が集まり、情報交換を行った。このワークショップについては、2年に1回のペースで行う予定である。

5. JISS 委託研究事業

2005年度の国立スポーツ科学センター（JISS）・スポーツ医科学研究事業を行った。テーマは、『強化指定選手の各技術に関するバイオメカニクスの分析』である。この研究の目的は、JISSの施設を活用し、強化指定選手の各技術（サーブ、グラウンド・ストローク）のバイオメカニクスの分析を行い、技術改善、向上に役立つデータや知見を引き出すことである。2005年10月25日から27日の3日間、強化指定選手（東アジア競技大会出場選手6名）を対象に、JISSにて測定を行い、分析し、その結果について、選手本人に伝達した。この結果については、2006年のJISSでのコーチ会議で発表する予定になっている。

6. トレーニングセンターシステムにおける地域スポーツ科学サポート体制の整備・確立（インフラ整備事業）

昨年に引き続き、地域協会と連携して、地域トレーニングセンター設置に基づくスポーツ科学サポートの実施体制を確立することを目的として、各地域のスポーツ科学に関する施設・情報等の調査を行い、その実態の把握を行った。今後、さらに地域のスポーツ科学サポートを充実させていく上でも、地域のハード面およびソフト面の調査および情報の共有を積極的に行い、中央と地域とがスポーツ科学に関する情報をお互いに伝達できるシステムの開発をさらに推進していくことが重要であると認識できた。ホームページにおいても、スポーツ科学情報の分野で、ITF情報などの翻訳などを通して、より充実したものになり、今後は、さらなる発展を図っていくことが確認された。

7. 「ジュニア選手の体力、コンディショニング、傷害に関する講習および調査研究」

（ヨネックススポーツ財団 青少年スポーツ振興に関する助成金事業）

6地域（東北、北海道、東海、北信越、九州、関西）において、ジュニアテニス選手に対して体力を把握するために、体力測定を行った。その結果、男女とも筋力・パワーともに低い傾向を示し、また敏捷性を表すTテストについては、下肢パワー（立ち幅跳び）と相関が高いことより、下肢の筋パワーの向上を今後図っていくことの重要性が示唆された。各地域では、体力トレーニング指導も積極的に行われた。また、全日本ジュニアテニス選手権においてトレーニング&コンディショニングに関するアンケート調査を行い、その傾向を把握し、報告書としてまとめた。また、世界のトップジュニア選手のゲーム分析ということで、オーストラリアオープンを視察した。男女ともサーブそしてフォアハンドストロークのパワーが重要であることがわかり、今後は、これらの研究を通して、地域へ情報を伝達していくことを確認した。

8. 「ジュニアテニス選手のタレント発掘に関する研究－基礎体力とフィールドテストとの関係について－」（JISS 委託研究事業）

本研究は、基礎体力だけでなく、テニスコート上で専門的体力および運動能力を把握できるフィールドテストを開発し、14歳以下のジュニア選手を対象として5地域（関西、四国、九州、中国、東北）6県で体力測定およびフィールドテストを実施し、その関係を検討するとともに、タレント発掘を考慮しながら、そのテストの妥当性および有用性を検討するものであった。その結果、男女とも下肢のパワーを表す立ち幅跳びにおいては、走スピード、敏捷性などに相関が高く、テニスの総合的な能力を表す測定項目としては、非常に良いものであることが示唆された。この項目と立ち3段跳び、そしてメディシンボール投げを加えることによって、よりタレント性を把握する項目としても重要であることも確認できた。今後は、全国展開しているテニスフィールドテストに追加項目としてアナウンスし、実施していくことによって、早期に能力の高い選手を発掘することにつながるものと思われる。

普及指導本部（本部長：飯田 藍）

一貫指導体制推進委員会（委員長：井上喜代志）

事業区分：5

- 事業名：1. 「ジュニア及び指導者強化合宿」の開催
 2. 「情報のソフト化事業」の実施
 3. 会議の開催

1. (1) 「地域ジュニア及び指導者強化合宿」

地域	場所	期 間	対 象	指 導 者	テクニカル	S & C
北海道	札幌	2月10日～2月11日	U14 14名	4名	横松尚志	中村寛孝
東北	宮城	9月30日～10月1日	U14 12名	10名	桜井準人	中村寛孝
北信越	石川	2月10～2月12日	U13 13名	10名	桜井準人	岩月俊二
関東	千葉	1月6日～1月8日	U12 38名	16名	横松尚志	三栖英揮
東海	浜松	12月23日～12月24日	U14 17名	4名	田村伸也	中村寛孝
関西	兵庫	10月28日～10月29日	U13 24名	12名	横松尚志	中村寛孝
中国	広島	9月23日～9月24日	U13 16名	8名	横松尚志	植木五行
四国	徳島	1月13日～1月14日	U14 16名	8名	桜井準人	中村寛孝
九州	佐賀	9月17日～9月18日	U14 18名	14名	田村伸也	植木五行

(2) 「ブロックジュニア及び指導者強化合宿」

地域	場所	期 間	対 象	指 導 者	テクニカル	S & C
北海道	帯広	10月7日～10月8日	U12～U18 31名	4名	丸山 薫	田島孝彦
東北	福島	10月21日～10月22日	U14 16名	2名	桜井準人	三栖英揮
北信越	新潟	1月6日～1月8日	U14 16名	10名	田村伸也	浜浦幸広
関東	栃木	11月3日～11月5日	U16 32名	8名	横松尚志	三栖英揮
東海	静岡	11月25日～11月26日	U13 24名	9名	田村伸也	中村寛孝
関西	滋賀	1月20日～1月21日	U12,U14 40名	4名	桜井準人	三栖英揮
中国	島根	11月3日～11月4日	U13 16名	4名	桜井準人	岩月俊二
四国	香川	10月14日～1月15日	U12、高 23名	3名	横松尚志	中村寛孝
九州	鹿児島	10月28日～10月29日	U8～U18 55名	25名	田村伸也	植木五行

※地域強化合宿参加者 選手 地域：168名 ブロック：253名 合計421名

指導者 地域：85名 ブロック：69名 合計154名

※06年度テーマ「サービス」

2. 「情報のソフト化事業」の実施

- (1) 地域や都府県で開催する強化合宿に持ってゆく資料の作成を、デジタルデータとして活用した。
 (2) 上記強化合宿の報告書等、情報の格納庫として、ホームページに掲載するように準備中
 (07年5月完了予定)

3. 会議の開催

- (1) 全体委員会を年2回開催
 強化合宿の有効性を高める為の事前準備と一貫指導体制構築に関する確認事項等協議し

た。

- (2) コーチーズカンファレンスや日中韓キャンプなど、他の委員会事業への参加協力を行った。ナショナルコーチとの意見交換など、他の委員会との連携を盛んにしてJTA事業への総合的な推進に協力した。

指導者育成委員会（委員長：飯田 藍）

事業区分：4

事業名：オリンピックへ向けて「発掘・育成・強化」コーチ養成及びテニス普及を担う指導者の資質の向上を目的とした事業を推進する。

事業内容：公認指導員養成事業及び検定会・研修会の開催プログラムの制作を行う

1. 公認資格認定に関する(コーチ・上級コーチ・教師・上級教師)検定会
下記の通り公認資格認定に関する養成講習会および検定会を実施した。
 - (1) コーチ：前期 大阪 2006年11月27日～29日 参加者27名
後期 東京 2007年1月16日～19日 参加者27名
 - (2) 教師(専門学校)：東京 2007年2月19日～20日 参加者62名
 - (3) 上級教師：前期 東京 2007年1月22日～24日 参加者22名
後期 東京 2007年2月14日～16日 参加者22名
 - (4) スポーツ指導員：北海道、宮城県、神奈川県、長野県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府の8道府県で認定事業を行なった。
 - (5) 上級スポーツ指導員：大阪府、関東地域の2会場で認定事業を行なった。
2. S級ライセンスのための養成講習会を下記の通り実施した。参加者は31名であった。
 - (1) 基礎理論課程(TTC) 2006年12月15日～22日 7泊8日
 - (2) 指導実習課程(須玉) 2007年3月12日～16日 4泊5日
3. 2006年12月3日～4日に国立スポーツ科学センターにおいて日本体育協会助成事業の「全国講師研修会」をマスターコーチ、マスター教師を対象として開催した。参加者は39名であった。
4. 26名のマスター教師の任命を承認した。なお、マスター教師は2007年4月1日付けの認定となる。
5. 公認指導員を対象に指導者のレベルアップのためのリフレッシュ研修会を都道府県、地域主体で開催した。
6. 「コーチーズカンファレンス」を2007年2月25日～26日に国立スポーツ科学センターにおいて、開催した。参加者は355名であった。
7. International Tennis Number の活用のため、教師認定校にキットを配布し、教師検定会においてITNアセスメントを実施した。そのほか、全日本選手権、全日本学生選手権等の会場でITNアセスメントを実施した。
8. 教育プログラムに関する会議を2006年8月13日に開催した。
9. 委員会開催
 - (1) 認定校専門学校の担当者および担当教員との会議を行なった(2006年4月23日、2006年12月3日)
 - (2) 認定資格に関して日本体育協会と打ち合わせを行なった。
 - (3) 常任委員会を2006年4月22日、5月21日、6月2日、7月15日、8月13日、9月9日、10月7日 に行った。
 - (4) 全体会議を2006年5月21日、2006年12月2日、2007年2月24日に行なった。

- (5) 東京・岸記念体育館にて開催された日本体育協会の「全国スポーツ連絡者会議」「公認コーチ養成講習会事務説明会」に出席した。

普及委員会（委員長：山本由美子）

事業区分：1

事業名：47都道府県協会とテニスの日推進協議会との連携によりテニスの日の実施をメインとして活動した。また ITN の査定デモンストレーションは関連委員会の協力を得て実施した。

事業内容：「テニスの日」イベント実施

テニスの普及と発展を目的とし、テニス人口の増加ならびに新しいテニス愛好家の創出を目指して活動を行う。キャッチフレーズは“テニスコミュニケーション”これはテニスが年齢差を問わず、いろいろな人達とできるスポーツであり、広くコミュニケーションが図れる生涯スポーツであることを意図している。

開催期日は9月23日を中心に前後1週間を基本としている。

①個別イベントは全国361ヶ所で実施。参加者数は約25,000人

②共同イベントは都道府県テニス協会主催を中心に実施、今年も全国47都道府県の参加を得、それぞれで活発に開催された。平均参加人数237名(昨年279名)。約11,000人。

今年は兵庫県宝塚市に松岡修造プロを派遣。地元の子供たちやテニス愛好者と元気一杯のテニス教室を開催した。他に三重県、島根県へ協議会からプロコーチを派遣して指導をお願いした。共同イベントのテーマとしてあげた「ITN 査定デモンストレーション」は、5県がまた「全国一斉ボレー大会」には19県が参加した。

③有明メインイベントは多くの著名選手の参加協力により、総勢350名のスタッフと共にイベントを盛り上げた。開催面数は24面プラスコロシウムコート。主なイベントは親子テニス、キッズテニス、ジュニアテニスクリニック、初心者対象レッスン、車椅子テニス、ターゲットテニス、ITN 査定デモンストレーション、親善試合など。参加者数は約5,500人。

ITN システム部会（部会長：塚本 新治）

事業区分：1

事業名：19年度より導入される ITN システムの普及に協力し、そのための環境整備作りを心がける。ITN 査定ガイド(冊子)をより充実し査定人編、プレーヤー編を作成し導入を判りやすくする

事業内容：1. ITN On Court Assessment（コート上の査定）

(1) 9月23日 テニスの日イベント 有明会場 参加者30名

青森県テニス協会 八戸東運動公園 参加者12名

兵庫県テニス協会 宝塚運動公園 参加者20名

いづれも一般テニス愛好者を対象に実施

(2) スポーツ専門学校にて授業の一環として実施

1) 大阪社会体育専門学校

2) アップルスポーツカレッジ

3) 日本工学院八王子専門学校

- 4) 東京リゾート&スポーツ専門学校
- 5) 履正学園コミュニティ・スポーツ専門学校
- (3) 大会会場にて選手対象に実施
- 6) 11月18,19日 全日本選手権大会 有明テニスの森 参加者 22名
- 7) 11月8日 全国レディース 昭和の森 参加者 30名
- 8) 8月10日 全日本学生テニス選手権大会 昭和の森 参加者 17名
- 9) 8月 東北学生選手権大会 仙台川内テニス場 参加者 8名
- 10) 7月16,17日 東北ジュニア選手権大会 安比高原 参加者 12名
- 11) 6月4日 青森県高校選手権大会 弘前市いわき総合運動公園 15名
- (4) 地域の学生・一般テニス愛好家を対象に実施
- 12) 4月29日 慶応大学ポニーテニス同好会 昭和の森 参加者 100名
- 13) 4月 青森市テニス協会 青森市スポーツ公園 参加者 20名
- 14) 4月 青森大学テニスクラブ 青森大学 参加者 20名
- (5) 上級指導員研修会 (関東テニス協会主催)
 - 12月 コーチ、指導員 山梨県須玉 参加者 80名

2. ITN 実施データの入力

- (1) プレーヤーに ITN 証明(登録番号、仮パスワード)を配布し、プレーヤーがホームページの開設を行い、各種のデータ比較が出来るようにした
- (2) わが国の査定人登録数は 107 名、プレーヤー登録数は 418 名 (2007.1.29 現在)
- (3) ITN の website にテニスの日有明イベントの写真が掲載されている

キッズテニス部会 (部会長: 佐野素子)

事業区分: 1

事業名: キッズテニスの普及及び指導

- 事業内容:
- 1. 7月1日(土) 昭和女子大学 親子スポーツフェスティバル、三茶ウキウキフェスタの行事に参加、キッズテニスの指導を行った 参加人数 60名
 - 2. 7月31日(月) 東京都体育館 全国ショートテニストーナメント 審判の手伝い
 - 3. 9月23日(土) テニスの日 有明1,2番コートを担当 参加人数 200名
 - 4. 10月9日(月) 国立科学スポーツセンター 体育の日スポーツフェスタの行事 200名の小中学生に指導協力
 - 5. 12月16(土) 17日(日)の2日間 東京都体育館 マナーキッズテニス小学校団体戦全国大会 審判の手伝いとして協力 参加人数 370名

環境委員会 (委員長: 橋爪 功)

委員会活動 2年目に当たり、JOC スポーツ環境委員会とも緊密に連携を取り、自然環境保全のために、昨年より一歩進んだ事業を行った。

1. テニス界における環境保全の調査と啓蒙

JOC の環境保全ポスターと横断幕の掲出について、当協会主催大会を中心とした 14 大会での掲出に加え、須玉ジュニアキャンプ、香川ブロック合宿、修造チャレンジ、コーチーズカンファレンス、テニスの日においても PR し、啓蒙活動の一助とした。

2. テニス指導者に対する環境問題への啓蒙と情報の提供

(1) 全国講師講習会

- ・期日 18年12月3日(日)
- ・会場 東京都国立スポーツ科学センター
- ・人数 60名
- ・内容 47都道府県の指導者育成の中心となる指導者を対象に、環境委員会および他の競技団体の環境保全への取り組みについて、橋爪委員長が講義と協力要請を行った。

(2) 上級教師養成講習会

- ・期日 19年2月14日(水)
- ・会場 東京都昭島市昭和館テアトロソシエ
- ・人数 24名
- ・内容 環境委員会の活動、地球温暖化への問題提起、テニス指導者としての課題などについて、橋爪委員長が講義しレポートの提出を求めた。

(3) JTAコーチーズカンファレンス

- ・期日 19年2月25日(日)
- ・会場 東京都国立スポーツ科学センター
- ・人数 350名
- ・内容 「いつまでもテニスができる地球であるために」をテーマに、環境省吉野議章氏・吉田友佳委員・橋爪委員長によるパネルディスカッションを行った。

3. 各競技団体、環境保護団体との提携、情報の収集

長野で開催された「第2回JOCスポーツ環境・地域セミナー」に長野県テニス協会より三村理事長、庭山強化委員長が参加、また「第3回スポーツと環境担当者会議」には橋爪委員長、秋山委員、中原委員の3名が参加して、JOC、各競技団体、トップ選手による環境保全の活動や環境省の「チームマイナス6%」の講演など情報収集と交流を行い、委員会にフィードバックした。

また、JOCの山本広報担当係長に、JIS14001取得に関するヒアリングを実施し、JTA事務局としての活動の参考にした。

4. 都道府県協会との連携

47都道府県に「環境担当者」の設置を要請した。現在担当者が決まっているのは、まだ25%程度であり今後一層の努力が必要である。

5. 広報活動「環境レポート2006」の発行

テニス協会としての環境保全に関する具体的な活動を冊子として300部発行し、関連団体および47都道府県協会に配布した。

6. NPOグローバルアライアンス(GSA)との協働

GSAの内外にわたる多彩な環境保全活動の情報の収集と経験を参考にするために、環境委員会への出席を依頼した。とりわけテニスボールとラケットのリユース活動に関しては、47都道府県協会に情報を流した。

7. 会議の開催その他

上記の活動を円滑に進めるため、全国委員会を2回(5月、2月)、常任委員会を2回(9月、11月)に開催した。

マナーキッズテニスプロジェクト(ディレクター:田中日出男)

1. マナーキッズテニスの積極的な普及

マナーキッズテニス教室を75場所、81日開催し、5,488名が参加した。

(2005年度は52場所、59日開催し、4,453人)

- 1 埼玉県さいたま市(一般公募型デモ教室)
平成18年4月16日(日)大宮体育館 95名参加
- 2 和歌山県和歌山市(訪問指導型、)
平成18年4月21日(金)
和歌山大学教育学部附属小学校体育授業3年生 120名参加
- 3 和歌山県新宮市(一般公募型デモ教室)
平成18年4月22日(土)新宮市総合体育館 45名参加
- 4 東京都杉並区(訪問指導型)
平成18年4月25日(火)
東京都杉並区立三谷小学校体育授業1年生 60名参加
平成18年10月7日(土)
東京都杉並区立三谷小学校土曜日事業 36名参加
平成19年3月3日(土)
東京都杉並区立三谷小学校土曜日事業 35名参加
- 5 岩手県一関市(一般公募型・岩手TA)
平成18年4月30日(日)一関市体育館 50名参加
- 6 静岡県静岡市(訪問指導型)
平成18年5月6日(土)静岡くらぶ 31名参加
- 7 山梨県中央市(訪問指導型)
平成18年5月22日(月)中央市立田富南小学校体育授業 295名参加
平成18年5月23日(火)中央市立田富南小学校体育授業
- 8 静岡県浜松市(一般公募型デモ教室)
平成18年5月27日(土)佐鳴台小学校体育館 27名参加
- 9 東京都府中市(訪問指導型)
平成18年6月17日(土)本宿小学校体育館 90名参加
- 10 神奈川県横浜市青葉区(一般公募型デモ教室)
平成18年6月18日(日)新石川スポーツ会館 57名参加
- 11 和歌山県御坊市(一般公募型・和歌山TA)
平成18年6月25日(日)川辺西小学校体育館 37名参加
- 12 佐賀県佐賀市(一般公募型デモ教室)
平成18年7月1日(土)ウインブルドン九州テニスクラブ 74名参加
- 13 長崎県長崎市(一般公募型デモ教室)
平成18年7月2日(日)西城山小学校体育館 111名参加
- 14 東京都墨田区(一般公募型デモ教室)
平成18年7月2日(日)両国中学校柔・剣道場 75名参加
- 15 千葉県野田市(訪問指導型)
平成18年7月3日(月)岩木幼稚園保育授業 210名参加
平成18年7月4日(火)岩木幼稚園保育授業
- 16 神奈川県横浜市港北区(一般公募型デモ教室)
平成18年7月9日(土)小机スポーツ会館 63名参加
- 17 和歌山県新宮市(訪問指導型)
平成18年7月11日(火)新宮市立王子小学校体育授業 60名参加
- 18 北海道池田町(一般公募型デモ教室)
平成18年8月5日(土)池田町総合体育館 33名参加

19	北海道帯広市（一般公募型デモ教室） 平成18年8月6日（日）帯広市総合体育館	29名参加
20	北海道釧路市（一般公募型デモ教室） 平成18年8月7日（月）釧路市コミュニティー体育館	42名参加
21	北海道北見市（一般公募型デモ教室） 平成18年8月8日（火）北海道北見市北海道立北見体育センター	80名参加
22	東京都大田区（訪問指導型・小池クラブ） 平成18年8月30日（水）太田立小池小学校体育館	45名参加
23	和歌山県田辺市（一般公募型・和歌山TA） 平成18年9月2日（土）大屋体育館	44名参加
24	宮城県名取市（訪問指導型） 平成18年9月8日（金）尚綱学院大学付属幼稚園保育授業	43名参加
25	宮城県利府町（一般公募型デモ教室） 平成18年9月9日（土）利府町総合体育館	49名参加
26	和歌山県和歌山市（訪問指導型和歌山TA） 平成18年9月9日（土）和歌山市立安原小学校	26名参加
27	宮城県利府町（一般公募型デモ教室） 平成18年9月10日（日）NPOみやぎジュニアーTC	45名参加
28	広島県府中町（訪問指導型） 平成18年9月16日（土）府中町総合型地域スポーツクラブ	56名参加
29	和歌山県和歌山市（訪問指導型・和歌山TA） 平成18年9月16日（土）和歌山市立雄湊小学校	43名参加
30	和歌山県和歌山市（一般公募型デモ教室） 平成18年9月18日（月）和歌山県立体育館	103名参加
31	東京都豊島区（一般公募型デモ教室、リーダー講習会兼） 平成18年9月24日（日）三菱養和巣鴨スポーツセンター	162名参加
32	静岡県浜松市（訪問指導型浜松市TA） 平成18年9月30日（土）浜松市立佐鳴台小学校	50名参加
33	神奈川県横浜市緑区（一般公募型デモ教室） 平成18年10月1日（日）十日市場スポーツ会館	36名参加
34	和歌山県和歌山市（訪問指導型和歌山TA） 平成18年10月7日（土）和歌山市立紀伊小学校	36名参加
35	東京都杉並区（訪問指導型） 平成18年10月9日（月）松ノ木運動場	48名参加
35	群馬県太田市（訪問指導型） 平成18年10月12日（木）大田市立鳥之郷小学校体育授業	51名参加
36	岩手県花巻市（一般公募型デモ教室） 平成18年10月14日（土）花巻市民センター	41名参加
37	埼玉県所沢市（訪問指導型） 平成18年10月15日（日）所沢西地区総合型地域スポーツクラブ	25名参加
38	神奈川県逗子市（一般公募型・逗子市TA） 平成18年10月21日（土）逗子市総合体育館	78名参加
39	和歌山県和歌山市（訪問指導型・和歌山TA） 平成18年10月21日（土）和歌山市立雑賀小学校	49名参加
40	和歌山県和歌山市（訪問指導型・和歌山TA） 平成18年10月28日（土）和歌山市立山東小学校	42名参加

41	愛知県尾張旭市（一般公募型デモ教室） 平成18年11月3日（金）尾張旭市立渋川小学校体育館	36名参加
42	北海道恵庭市（一般公募型デモ教室） 平成18年11月4日（土）島松体育館	50名参加
43	北海道岩見沢市（一般公募型デモ教室） 平成18年11月5日（日）イベントホール赤レンガ	39名参加
44	福岡県田川郡川崎町（訪問指導型） 平成18年11月7日（火）川崎町立真崎小学校体育授業	91名参加
45	和歌山県和歌山市（訪問指導型） 平成18年11月7日（火）和歌山市立貴志小学校体育授業	82名参加
46	神奈川県横浜市（一般公募型デモ教室） 平成18年11月11日（土）横浜市立野小学校体育館	43名参加
47	京都府京都市（訪問指導型） 平成18年11月12日（日）京都市立御室小学校	76名参加
48	群馬県渋川市（訪問指導型） 平成18年11月16日（木）渋川市立長尾小学校体育授業	59名参加
49	青森県八戸市（訪問指導型） 平成18年11月17日（金）八戸市立新井田小学校体育授業	178名参加
50	青森県八戸市（一般公募型デモ教室） 平成18年11月18日（土）南部山健康運動センター	43名参加
51	岡山県倉敷市（一般公募型デモ教室） 平成18年11月19日（日）倉敷市立葦高小学校体育館	53名参加
52	神奈川県相模原市（一般公募型デモ教室） 平成18年11月23日（木）相模原市総合体育館	98名参加
53	富山県射水市（一般公募型デモ教室） 平成18年11月25日（土）小杉総合体育センター	80名参加
54	和歌山県和歌山市（訪問指導型・和歌山 TA） 平成18年11月25日（土）和歌山市立野崎小学校	43名参加
55	福井県福井市（一般公募型デモ教室） 平成18年11月26日（日）きららパークふれあいドーム	43名参加
56	千葉県市川市（訪問指導型） 平成18年11月28日（火）市川市立市川小学校体育授業	179名参加
57	山形県米沢市（一般公募型デモ教室） 平成18年12月2日（土）米沢市多目的運動場	42名参加
58	和歌山県和歌山市（訪問指導型・和歌山 TA） 平成18年12月2日（土）和歌山市立和歌浦小学校	51名参加
59	山形県天童市（一般公募型デモ教室） 平成18年12月3日（日）山形県総合運動場屋内体育館	55名参加
60	愛知県尾張一宮市（一般公募型デモ教室） 平成18年12月9日（土）木曾川体育館	63名参加
61	和歌山県和歌山市（訪問指導型・和歌山 TA） 平成18年12月9日（土）和歌山市立砂山小学校	51名参加
62	東京都西東京市（訪問指導型・ワセダクラブ） 平成18年12月23日（土）早稲田大学庭球部小学生テニス教室	80名参加
63	千葉県千葉市（訪問指導型）4456 平成19年1月20日（土）NPO テニスコミュニティ千葉	94名参加

- 64 和歌山県和歌山市（訪問指導型・和歌山 TA）
平成19年2月3日（土）和歌山県和歌山市立四ヶ郷北小学校 29名参加
- 65 静岡県菰山市（訪問指導型）
平成19年2月12日（月）マナーキッズ・ジュニア親子TC 88名参加
- 66 福岡県遠賀郡岡垣町（訪問指導型）
平成19年2月13日（火）岡垣町立遠賀小学校体育授業 525名参加
平成19年2月14日（水）岡垣町立遠賀小学校体育授業
平成19年2月15日（木）岡垣町立遠賀小学校体育授業
- 67 福岡県遠賀郡岡垣町（訪問指導型）
平成19年2月15日（金）岡垣町立戸切小学校体育授業 37名参加
- 68 熊本県熊本市（訪問指導型）
平成19年2月17日（土）熊本市立出水小学校 37名参加
- 69 和歌山県橋本市（一般公募型デモ教室）
平成19年2月17日（土）県立橋本体育館 22名参加
- 70 和歌山県和歌山市（訪問指導型・和歌山 TA）
平成19年2月24日（土）和歌山市立吹上小学校 56名参加
- 71 東京都大田区（訪問指導型）
平成19年3月3日（土）大田区立小池小学校小池土曜クラブ 29名参加
- 72 和歌山県紀ノ川市（一般公募型デモ教室）
平成19年3月3日（土）内田町立体育館 25名参加
- 73 神奈川県横浜市青葉区（訪問指導型）
平成19年3月20日（火）桐蔭学園幼稚部 46名参加
- 74 東京都立川市（一般公募型デモ教室）
平成19年3月26日（月）泉体育館 96名参加
- 75 奈良県奈良市（一般公募型デモ教室）
平成19年3月31日（土）ダイヤモンドテニスクラブ学園前 42名参加

2. 第2回文部科学大臣杯マナーキッズテニス全国小学生団体戦の開催

平成18年12月16日（土）、17日（日）の両日、東京体育館において開催し、昨年を大幅に上回る19都道府県から55団体、146チームの368名が参加した。試合結果、マナー、感想文、運動能力テストの結果、以下の男子4名、女子4名の8選手をマナーキッズテニス大使に任命し、2007年6月下旬、全英テニス選手権（ウインブルドン）に派遣する。

平成19年3月29日（木）、30日（金）の両日、千葉県柏市吉田テニス研修センターにおいて事前研修会を開催した。小笠原流礼法常任理事 鈴木万亀子総師範、吉田記念研修センター理事長 吉田宗弘氏、元ウインブルドン複優勝者 吉田和子様、田辺正氏、宮司正毅氏、溝口美貴様が講師として指導した。

【マナーキッズテニス大使】

	選手名	団体名	学年
男子	河原 健太	和歌山県和歌山市立高松小学校	5
	野中 悠太郎	和歌山県和歌山市立高松小学校	5
	鶴田 健二	愛知県豊田市立青木小学校	6
	峰岸 新	和歌山県和歌山市立高松小学校	6
女子	鳥屋部 華奈子	青森県八戸市立新井田小学校	6
	吉岡 晃子	東京都成蹊小学校	6

	華谷 和生	愛媛県愛媛大学総合型地域スポーツクラブ	6
	川村 貴恵	愛媛県愛媛大学総合型地域スポーツクラブ	6

3. 体育授業、保育授業として開催

マナーキッズテニス教室が小学校体育授業及び幼稚園保育授業として取り上げられ、以下の通りその輪が拡がりつつある。

青森県新井田小学校、千葉県市川小学校、東京都杉並区立三谷小学校、群馬県鳥之郷小学校、長尾小学校、山梨県田富南小学校、京都府御室小学校、和歌山県吹上小学校、和歌山大学教育学部附属小学校、王子小学校、貴志小学校、福岡県添田小学校、真崎小学校、海老津小学校、戸切小学校

8 都道府県 15 小学校

北海道ひぶな幼稚園、宮城県尚絅学院大学附属幼稚園、千葉県岩木幼稚園、埼玉県こぼとの森幼稚園、東京都月島幼稚園、神奈川県桐蔭学園幼稚園

6 都道府県 6 幼稚園

専務理事直轄

倫理委員会（委員長：佐藤 政廣）

1. 倫理規程に関する Q&A 集の作成および編纂

本委員会は常に公明正大かつ健全化を目指した管理体制と健全な組織運営を図っていく必要があり、役・職員、公認スポーツ指導者、主催・共催等スポーツ競技会、審判員をはじめとする運営関係者ならびに一般テニス愛好家の倫理や社会規範に関する意識の啓発と問題の発生を未然に防ぐため、平成 17 年度策定の倫理規定に関する Q&A 集を作成ならびに編纂した。

危機管理委員会（委員長：内山 勝）

1. 有事における危機管理対策の実施

平成 18 年度は危機管理委員会が対応をしなければならない大きな事例は起こらなかったことから、主立った活動はありませんでした。

ドーピング判定委員会（委員長：渡邊 康二）

1. WADA、JADA との関連

平成 18 年度における WADA, JADA との関連事業は特になし。

2. ドーピング検査陽性反応者発生時の対応

平成 18 年度における大会でのドーピング検査の結果に陽性反応者はゼロであった。

1. ドーピング検査の実施

(1) 全日本テニス選手権大会におけるドーピング検査

実施期日：平成18年11月15日(水)

場 所：有明コロシアム(東京都江東区)

対 象：男子選手 5名 女子選手 5名 合計 10名

検査要員：検査員 5名 助手 10名 合計 15名

検査結果：検査分析結果は、全員”禁止薬物は認められなかった”との判定を得た。

事業の経費：国費助成金により予算内で充実した検査を実施することが出来た。

事業の成果：本大会におけるドーピング検査は9回目となり、選手達も協力的で特に問題もなく、円滑に実施することが出来た。

ドーピング検査を受ける選手に対しては、検査完了迄の時間を活用して、アンチ・ドーピングについて個別に解説や話し合いを持った。今回の検査対象となった選手の中には、TUE（治療目的使用の適用措置）の申請を必要とする者もいたが、この申請手続き方法を全く知らなかったため詳しく説明のうえ資料を交付した。

また、その対話の中から、選手達のアンチ・ドーピングについての無関心・無知が伺われ、選手層が毎年入れ替わっていく事もあるとは言え啓蒙の難しさを痛感させられた。

しかし、ドーピング検査を実施することが、地道ではあるがアンチ・ドーピング啓蒙の良い機会になっており、ドーピング検査の回を重ねる毎に、選手・コーチ等の意識は変わってきている。

なお、この検査から使用する用紙の内容（選手に同意を得る箇所と内容）が替わったので、検査要員に対する説明には十分な時間をかけた。

(2) 全日本ジュニアテニス選手権大会におけるドーピング検査

実施期日：平成18年8月8日(日)

場 所：靱テニスセンター(大阪市西区)

対 象：男子選手 6名 女子選手 6名 合計 12名

検査要員：検査員 6名 助手 8名 合計 14名

検査結果：検査分析結果は、全員”禁止薬物は認められなかった”との判定を得た。

事業の経費：国費助成金より予算内で充実した検査を実施することが出来た。

事業の成果：今回の検査対象選手は、例年だと日程と予算の関係により低学年を対象としたが、今回は18歳以下のシングルスに参加した選手から抽選により12名を対象とした。

未成年であり全員が初めての検査であったので、父兄・コーチなどに同伴して頂き、検査完了までの時間を活用し、諸資料によりアンチ・ドーピングにつき懇談形式で優しく解説を行った。

特に、父兄・コーチの方々にアンチ・ドーピングについての認識を高めて頂いたように感じたが、検査終了後アンチ・ドーピング諸資料を持ち帰って頂き、友達に選手にもこの経験を話して頂くようお願いしたので、啓蒙の成果が期待できるものと思われる。

また、本大会でのドーピング検査の実施は、多くの選手・父兄・コーチ等指導者に興味を持って頂く良い機会となり、この面からもアンチ・ドーピング啓蒙の効果があったものと思える。

(3) 全日本学生テニス選手権大会におけるドーピング検査

実施期日：平成18年8月6日（日）

場 所：昭和の森テニスクラブ（昭島市）

対象選手：男子選手 5名 女子選手 5名 合計10名

検査要員：検査員 5名 助手 10名 計15名

検査結果：検査分析結果は、全員”禁止薬物は認められなかった”との判定を得た。

事業の経費：本年度予算に挙げていなかったため、急遽予算を組み直し全日本選手権大会の検体数を減じるなどにて費用を捻出した。

事業の成果：本大会の検査は、全日本学生テニス連盟より強い要望があり行われたものである。全日本ジュニア、全日本テニス選手権大会と二大会において今まで実施されてきたが、中間の年齢層が抜け落ちていた。

一般にアンチ・ドーピングの意識が低く、風邪クスリ、ドリンク剤の危険性について知らない者が多かった。検査対象者には異常を認めなかったが、この大会で検査を行うことは、学生達にアンチ・ドーピングの意識をしっかりと自覚してもらい、啓蒙していく上でも非常に意義のあることと思われる。

(4) 2006年 AIGオープン大会におけるドーピング・コントロール実施協力

平成19年10月有明コロシアムで行われた大会期間中に行われたドーピング検査に対し要員を5名を手配した。

(5) 第24回東レPPOテニスにおけるドーピング・コントロール実施協力

平成19年1月東京体育館で行われた大会のドーピング検査要員を当委員会から4名を派遣した。

(6) 検査体制を維持充実するため、JADA(日本アンチ・ドーピング機構)のメディカルオフィサー養成講習会に、委員の推薦と支援を行った。

1) JADA ドーピング・コントロール・オフィサー (DCO) 養成講習会への受講推薦

平成18年度養成講習会の受講者はいなかった。

2) 平成18年度末 JADA 認定 DCO

メディカルオフィサー：助川卓行、別府諸兄、及能茂道、石井庄次、奥平修三計5名

テクニカルオフィサー：服部雅彦、宮城操、高橋和子、松村佳永子、岡知珠、計5名

DCO 受講完了者：菊池哲郎、諸川玄、谷潤子、三谷玄弥、吉崎堅一、白井孝昭、

赤池敦、岩瀬春子、助川のぞみ、 計9名

2. アンチ・ドーピング対策

(1) 選手等からの照会対応

ナショナル選手やコーチ・選手の家族からの服用中の薬品についての照会や使用可能薬について等諸照会に対応した。

(2) テニスクラブのコーチからの照会

コーチから、中高生の選手にアンチ・ドーピングについて知識を持たせたいとの申し出があり、選手配布用資料と指導者用資料を送付し指導を依頼した。

(3) デ杯・フェド杯チーム帯同ドクターに、選手に対するアンチ・ドーピング教育の任務も担って頂くこととした。

それに伴い、フェド杯帯同ドクター金森章浩（医事委員会委員）にドーピング・コントロール委員会委員も兼務して頂くこととし、平成18年3月15日に開催された第12回常務理事・本部長会議にて「ドーピング・コントロール委員会委員追認の件」をお諮り頂き承認された。

(4) TUE（治療目的使用の適用措置）の申請は、所定の書類に医師が詳しく記入することになっており、選手が協会を通して JADA に提出することになっている。（平成19年度以降は選手が直接 JADA TUEC に申請書を郵送することになった）委員会では国際大会で使用する書

式見本と記入例を配布し、選手から依頼があった場合適切に対応するよう依頼した。

3. アンチ・ドーピングの啓蒙

(1) 平成18年6月に、新しく作成された「JADA Anti-DopingGuideBook2006」が、JADAから配付された。

この資料を、ドーピング判定委員会とドーピング・コントロール委員会委員等40名に配付し活用を依頼した。

なお、オリンピック強化指定選手には、この冊子がJADAから直送されている。

(2) JADAからの「最新アンチ・ドーピング関連記事ヘッドライン」配信

平成18年2月16日より、JADAからアンチ・ドーピングに関する最新情報が配信される事となったので、ドーピング・コントロール委員会が受信し、関係者に配布することとした。

(3) 文部科学省からの「アンチ・ドーピングの教育・啓発活動の実施状況」に関するアンケートに回答した。

その主な内容は次の通りである。

1) 制作物

- ・平成1年、小冊子「ドーピングの知識」を作成、選手・協会役員に配布。
- ・平成11年に「アンチ・ドーピングカード」を作成、大会時等に選手・役員に配布。
- ・平成13年にリーフレット「アンチ・ドーピングについて」を作成配布。

2) 記事掲載

- ・平成10年から15年の全日本テニス選手権大会のプログラムに、アンチ・ドーピングに関する記事を掲載した。
- ・平成9年のVOL50JTAニュースにドーピングに関する解説記事を掲載したが、その後もVOL59まで7回にわたり継続的に解説記事を掲載した。
- ・平成14年からJTAホームページに「ドーピング」欄を設け総合的なドーピングに関する記事を掲載している。

3) 選手・指導者に対する啓蒙

- ・平成9年全日本テニス選手権大会に於いて、出場選手全員に、体協作成の冊子「アンチ・ドーピング」を配布。
プレーヤーズラウンジにて、大会期間中体協作成のビデオ「アンチ・ドーピング」を常時放映すると共に、パネル「テニスとドーピング」を掲出。
- ・平成10年全日本テニス選手権大会から毎年ドーピング検査を実施しているが、その機会に、検査対象選手に体協作成の「ドーピング検査Q&A」「使用可能薬リスト」や、委員会で作成したリーフレット等諸資料を基にアンチ・ドーピングにつき解説している。ドーピング検査は、全日本ジュニアテニス選手権大会でも行い、これまでに13回実施しているが、何れも教育の場としてのウェイトが高い。
また、平成10年度には全日本出場選手に対し、ドーピング検査に関するアンケート調査を実施した。
- ・平成12年、ナショナル強化指定選手合宿時、体協スポ研の雨宮先生を講師にお迎えしドーピングに関する講演会を開催した。
- ・毎年の公認指導者養成講習会で、アンチ・ドーピングにつき講演している。

以上